

令和4年度

教育委員会事務事業点検・評価報告書

(令和3年度分)

寒河江市教育委員会

目 次

I	寒河江市教育委員会事務事業の点検・評価について	1
1.	制度の概要及び目的	1
2.	点検・評価の対象事業	1
3.	点検・評価の方法	1
4.	学識経験者の知見の活用	1
II	教育委員会の活動状況	2
1.	教育委員会の開催	2
2.	教育委員会協議会の開催	3
3.	教育委員会会議以外の活動	4
III	施策の体系	5
IV	外部評価委員の意見	7
1.	総 括	7
2.	施策ごとの意見	9
V	点検・評価対象事業一覧	19
	【点検・評価の結果（事務事業点検・評価調書）】	20

I 寒河江市教育委員会事務事業の点検・評価について

1. 制度の概要及び目的

平成19年6月に、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」が一部改正（平成20年4月1日施行）され、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行状況について自ら点検・評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出するとともに、公表することとなりました。

また、この点検・評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとされております。

この法律改正により、寒河江市教育委員会では、効果的な教育行政の推進を図るとともに、市民の方から教育行政について理解を深めていただくため、平成21年度から、3名の外部評価委員の方々から意見をいただき、点検・評価を実施しております。

今年度は、令和3年度に行った事務事業について点検・評価を実施し、その結果を報告書としてまとめました。

2. 点検・評価の対象事業

点検・評価は、令和3年度に実施した教育委員会所管事業のうち、事業規模及び市民への周知の必要性等を考慮して選定した主要な36事業を対象に実施しています。

3. 点検・評価の方法

点検・評価の対象とした事業については、「必要性」、「効率性」及び「有効性」等の観点から総合評価した上で、今後の方向性として、「拡充」、「継続」、「縮小」、「見直し」及び「休廃止」に区分して明らかにしました。そしてその内容は、事業ごとに「事務事業点検・評価調書」としてまとめております。

4. 学識経験者の知見の活用

教育委員会が行った点検・評価についてその客観性を確保するため、3名の学識経験を外部評価委員（寒河江市教育事務評価委員）として委嘱し、点検・評価の内容について意見をいただきました。

寒河江市教育事務評価委員

氏 名	役 職 名 等
安 藤 耕 己	山形大学地域教育文化学部 地域教育文化学科 教授
渡 辺 聡	元教員
秋 場 礼 子	元市体育振興公社事務局長

II 教育委員会の活動状況

1. 教育委員会の開催

開催日	区分	議案番号	会 議 内 容
令和3年 4月19日	定例	27	寒河江市教育委員会教育長事務委任規程の一部改正について
		28	公民館整備事業費補助金交付規程の廃止について
5月19日	定例	29	寒河江市教育委員会教育長事務委任規程の一部改正について
		30	令和3年度教育費補正予算案に対する意見の申出について
6月23日	定例	31	寒河江市社会教育委員の委嘱について
		32	寒河江市中央公民館運営審議会委員の委嘱について
		33	寒河江市図書館協議会委員の任命について
		34	寒河江市教育事務評価委員の委嘱について
7月19日	定例	35	令和4年度使用教科用図書の採択について
8月19日	定例	36	教育委員会の事務事業（令和2年度分）の点検・評価について
9月21日	定例	37	教育委員会の権限に属する事務に係る教育長の臨時代理の承認について
11月22日	定例	38	寒河江市屋内多目的運動場に係る指定管理者の指定について
		39	令和3年度教育費補正予算案に対する意見の申出について
12月21日	定例	40	教育委員会の権限に属する事務に係る教育長の臨時代理の承認について
令和4年 2月22日	定例	1	令和4年度教育費予算案に対する意見の申出について
		2	寒河江市立小中学校管理規則の一部改正について
		3	寒河江市公民館に関する条例施行規則の一部改正について
		4	寒河江市文化財保存活用地域計画について
		5	寒河江市教育委員会職員の懲戒処分について

開催日	区分	議案番号	会 議 内 容
3月7日	臨時	6	令和3年度末寒河江市立小中学校教職員人事異動内申について
3月14日	臨時	7	寒河江市教育委員会教育長の辞職について
3月24日	定例	8	公民館長の任命について
		9	寒河江市立図書館長の任命について
		10	令和4年度寒河江市教育委員会所属職員の人事異動について
		11	令和4年度教育行政の一般方針について
		12	寒河江市教育委員会事務局組織規則の一部改正について
		13	寒河江市いじめ防止基本方針の一部改正について
		14	寒河江市学校施設整備計画について

2. 教育委員会協議会の開催

◆開催回数 平成3年4月19日 ほかに13回

◆報告及び協議内容

○新型コロナウイルス感染症対応について

- ・学校教育課（感染状況、修学旅行の変更、抗原キット配布 他）
- ・生涯学習課（イベントの変更、ワクチン接種会場 他）
- ・スポーツ振興課（イベントの変更、施設の利用制限 他）

○コミュニティスクール・学校運営協議会について

○さがえ未来コンソーシアムについて

○市文化財保存活用地域計画について

○オリンピックパブリックビューイングについて 他

3. 教育委員会会議以外の活動

(1) 学校訪問（令和3年度は全小中学校を訪問）

実施日	実施校	実施日	実施校
6月23日	柴橋小学校	10月15日	陵西中学校
6月30日	寒河江小学校	11月10日	西根小学校
7月6日	南部小学校	11月15日	三泉小学校
7月9日	陵南中学校	11月19日	白岩小学校
7月14日	陵東中学校	11月24日	寒河江中部小学校
10月13日	高松小学校	12月7日	醍醐小学校

(2) 総合教育会議

実施日	内 容
令和3年 11月8日	(1) アフターコロナの学校対応について (2) (仮称)「さがえ未来コンソーシアム」の構想について
令和4年 1月28日	(1) 寒河江市学校施設整備計画について

(3) その他調査・研修活動等

実施日	内 容
令和3年 4月19日	寒河江市教育委員会所管事項説明会（オンライン会議）
7月1日	西村山市町教育委員会連絡協議会総会・研修会 （オンライン会議）

III 施策の体系

第2次寒河江市教育振興計画(改定)

《基本目標》 ふるさとを愛し、寒河江から夢のある未来を切り拓く人づくり
 ～ 共に学ぶ 共に育む ～

《基本方針》

《主要施策》

《具体的な施策》

【基本方針1】
 豊かな心と健やかな体を育む

- 1 思いやりの心を育み、命や生き方を大切にする教育の推進
- 2 健やかな体を育む取組みの推進
- 3 食育の推進
- 4 心を育む読書活動の推進
- 5 芸術文化に親しみ、創造の喜びを育む取組みの推進

- 多様な体験と規範意識の醸成
- 基本的な生活習慣の確立
- 学校・家庭・地域が連携した命と生き方を考える教育の推進
- 元気に遊ぶ子どもの育成
- 学校体育の充実
- 豊かな心と命を育む食育の推進
- 幼保小中や家庭、地域が連携した食育の推進
- 地産地消の推進
- 本が好きな子どもの育成
- 自主的な読書活動の支援
- 芸術文化に触れる機会の充実
- 芸術文化活動の充実と新たな地域文化の創造

【基本方針2】
 学ぶ力を身に付け、未来を切り拓く資質や能力を育む

- 1 学びの充実と確かな学力の育成
- 2 特別支援教育や教育相談機能の充実と推進
- 3 これからの時代を見据えた「教育の情報化」の推進
- 4 グローバル化に対応した教育の推進
- 5 発達に応じた学びを育む教育の推進
- 6 キャリア教育の推進

- 学ぶ力を高める教育の推進
- 主体的な活動ができる力の育成
- 多様な学習環境づくり
- 特別支援教育の充実
- 教育相談機能の充実
- 情報活用能力の育成
- ICTを活用した教育の推進
- 外国語(英語)学習や国際理解教育の推進
- 幼児教育の充実
- 幼保小中高の連携の推進
- 社会的・職業的自立に向けた教育の推進

【基本方針3】
 生涯にわたって、生き生きと学び続ける取組みを推進する

- 1 自らを高める生涯学習の充実と環境づくりの推進
- 2 生涯にわたってスポーツに親しむ取組みの推進

- 生涯を通じた学習機会の充実
- 共に学び合う体制づくり
- 誰もが気軽に楽しめるスポーツ活動の推進
- 競技力向上の推進
- スポーツ環境の整備と充実
- スポーツを通じた地域活性化の推進

【基本方針4】
 ふるさとに誇りを持ち、郷土の歴史と文化を大切にする心を養う

- 1 ふるさとへの愛情と誇りを育む教育の推進
 - 地域の歴史や文化、自然を活用した教育活動の推進
- 2 郷土の歴史と文化を大切にする活動の推進
 - ふるさとの歴史の啓発・普及と文化財の保護
 - 民俗芸能や伝統行事の保護と伝承
 - 史跡「慈恩寺旧境内」の保存と活用

【基本方針5】
 教育を取り巻く環境や社会の変化に応じた取組みを推進する

- 1 信頼される教育の推進
 - 特色ある教育の創造
 - 信頼される教育環境づくり
- 2 安全安心で充実した教育環境の整備
 - 安全教育の充実
 - 安全管理の徹底
- 3 地域の教育力の向上と地域コミュニティの活性化
 - 地域の特色を生かした公民館活動の推進
 - 活力ある地域をつくる地区公民館運営
 - 生涯学習活動を通じた地域コミュニティの活性化
- 4 開かれた教育行政の推進
 - 信頼に応える教育行政の推進
 - 教育情報の公開と共有化の推進

IV 外部評価委員の意見

1. 総括

● (1) 全体について

本年度より寒河江市教育事務評価委員を拝命した。教育評価論に強く関心を持っており、これまでも他の自治体における評価にも携わったこともある。その観点からも意見を申し上げたい。

さて、評価対象となる36事業について概括すると、限られた財源の中でよく教育環境を整え、教育委員会の本義を理解した事業執行を行っていると思われる。また、コロナ禍の制約多い中、苦心して事業の継続と展開とに当たっていることに敬意を表したい。

なお、この教育事業評価の取り組みは、1990年代末以降の行政評価導入の延長線上に義務化・努力義務化がなされてきたものである。事業のプロセスをPDCAサイクルでみたとき、教育事業、特に社会教育に関する部分はC(評価)・A(改善)の部分が欠けてきており、また、きちんとしたエヴィデンス(データや根拠)に基づいた成果提示を行って来なかったことが昨今の予算削減につながってきたとも指摘されている。それゆえに「積極的に」評価に取り組むことも行政内における予算獲得の戦略上、有益であると思われるため、その観点もふまえて以下意見を申し上げたい。

(2) 評価のあり方および評価個表について

上記の観点から、まずは評価個表について意見を申し上げたい。率直に申し上げると、自己点検・自己評価に当たって重要な事項が抜けていると思われる。一般に事業計画立案に当たっての「目的」は実施主体から見たもの(実施主体のねらい)である。これに具体的な「目標」、すなわち学習者の立場において達成が目指されるものが具体的に示されないとその達成度が評価できないのではなかろうか。また、これがなされていないということは、評価指標を設定していないことにもなる。

報告書1頁に「点検・評価の対象とした事業については、「必要性」、「効率性」及び「有効性」等の観点から総合評価した上で、今後の方向性として、「拡充」、「継続」、「縮小」、「見直し」及び「廃止」に区分して明らかにした旨の記載があるが、「誰」が「何」を基準に判断したのかが明示されていない。ヒアリングの際にこの基準について尋ねたが、翌年度の予算化の状況、予算規模によって「方向性」の選択肢が選ばれている旨の説明があった。結果としてはそうであろうが、そのプロセスが不透明・不明確である。

ここで行われている事業評価は、行政内の財務担当をはじめとして行政内の関係者に対してのみ示されるものではない。2007年に「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」が一部改正され、翌年から本評価制度が義務化されたのであるが、その際の文部科学省の説明によると、本評価の本義は「効果的な教育行政の推進に資するとともに、住民への説明責任を果たしていくため」(「教育三法の改正について平成19年9月」)であることを再確認していただきたい。

ひとまずこれでは費用対効果の説明、すなわち住民に対するアカウンタビリティ達成の観点からは、本評価の説明は甚だ不十分なものと言わざるを得ない。また、当然、この仕組みでは学習者からの視点での評価やふりかえりが適切に反映されない。

とはいえ、行政評価自体が方法的にエバリュエーション(evaluation)という、専門職の専門性にその妥当性を担保させる主観的な評価ではなく、定量的なデータに基づき客観性を担保するアセスメント(assessment)に傾いている状況にある。その流れに従い、教

育に関する評価も数値で行う必要性が高まって来ており、いわゆるアウトプット(output)評価といえる客観的評価に重きが置かれがちとなる。学校教育では客観テストの結果、さらに社会教育・社会体育施設や事業では、利用者数・参加者数、たとえば図書館でいえば貸出冊数などが評価指標となってしまうがちなところである。もちろん、これらは教育の影響や成果のとらえ方として一面的であり、また個に応じた丁寧な教育指導なども評価上は埒外に置かれてしまうことにもなりかねない。

では定性的・質的にその事業を評価するためには、どうすればいいのか。やはり具体的に「学習者がどのようなのか、なりたいのか」を明示した評価指標を定め、成果を評価するアウトカム評価を心がけるべきであろう。そのアウトカム指標は、事業目標に基づくものとなり、それを5段階評価として平均値を示すことや、A~D等の評価とすれば、「仮」の数値化も可能となる。具体的には「ルーブリック」を設定すべきと思われる。

この目標(≒成果指標)やルーブリックがあれば、学習者からの評価、そして第三者評価も容易となり、評価のエビデンスも明示できることになる。とはいえ、条件整備に関する事業はこういった成果に関する「目標」の設定が難しいと思われるため、ここには逆に客観的なアウトプット評価の指標を設けた方がよいかもしれない。

以上のような観点から、評価シートおよび評価自体を見直していくことを願うところである。しかし、とはいえ自己点検・自己評価を一生懸命すればするほど業務が増して、かえって仕事の効率が低下する「評価の逆機能」も指摘される場所である。ゆえに将来的なビジョンを定めつつ、段階的に評価のあり方を見直していただきたい。

個別事業シートの構造・内容の見直しを前提としつつ、個別事業に関するコメントを以下示す。なお、主要な事業についてはPDF版でもよいので報告書を作成し付した方が評価に際しても、さらには住民への説明に際しても有益であると思われる。

- 生涯学習、社会教育、芸術・スポーツ振興に関わる事業については、コロナ禍の中、多くの人を集めての事業が実施できないものもあったと思われます。したがって、予算を有効に活用することも大変困難であったと思います。そうした中、できるもの、できないものを取捨選択しながらそれぞれの担当部署が事務に取り組みましたことに敬意を表します。
また、学校に勤務していた者として、社会情勢、教育環境の変化に合わせ、様々な工夫をしながら限られた予算の中で、人的、物的支援をいただいたことに心より感謝申し上げます。学校教育のICT化への対応や丁寧な特別支援教育への手立て、コミュニティ・スクール導入による地域と学校の連携強化など、時代に合った取り組みを教育委員会に先導していただいたこと大変ありがたく感じました。
- コロナ禍の影響で、2年続けて事業の縮小や中止が余儀なくされた中、事務事業の点検・評価を行うことは、数値的な比較ができず増々困難なものとなったと思います。
数値で表れない部分を如何に評価するのか、新たな価値をどう見つけていくかなど課題も多いと思いますが、多岐にわたる事業を実施することで得られる効果が、市民に等しく享受されることを願っております。

2. 施策ごとの意見

【基本方針1】豊かな心と健やかな体を育む

【青少年健全育成事業】

- 青少年育成推進員、青少年育成市民会議等は、啓発活動や広報活動など青少年からは遠いところで活動が行われているように感じます。また、一般の人からしてもどのような活動をしているのかが分かりにくい部分があると思います。できるだけ青少年を巻き込んで、より青少年の健全育成に直接かかわるようなものになればと思います。青少年育成推進員の研修会もが有効なものとなって西村山地区全体の青少年健全育成が向上することを期待しています。
- 2年続けて実施できなかつたので、これから組織体制や活動内容検討をしていくのでは、昨年の経験が活かされていないくて、対応が遅く感じてしまいます。

【さがえっこ育み推進事業】

- 市内小中学校10校への学校運営協議会の設置、全小中学校への地域学校協働本部の設置、さらには学校支援ボランティア活動がコロナ禍の中でも令和2年度からも大幅に増えている。地域ぐるみで子どもたちを育てる活動が定着化しているように思われる。また、部活動指導員の配置も進んでいることがうかがわれる。
本年度より他事業との統合により厚みを持ってコミュニティ・スクール推進事業を展開するようであるが、特に地域学校協働活動推進員の確保と研修に力を入れていただきたい。他自治体では推進員の人材確保と養成とに苦心しているところが多い。併せて、今後の部活動の地域移行の流れもにらみ、補助金に拠る部分も多いとは思われるが、部活動指導員の増員及び持続的な人材確保についても検討いただきたい。
- 「さがえっこ育み10箇条」については、学校では意識的に啓発していますが、各家庭や地域での意識はそれほどではないように感じます。コミュニティ・スクールが導入されたことでもあるので、全ての学校、家庭、地域で意識するようにその年の重点を統一するなどして啓発活動を行ってもよいのではないかと思います。
コミュニティ・スクール、学校運営協議会、地域学校協働本部、地域学校協働推進員、それぞれの意味、役割について、地域の人材は勿論のこと、学校職員もまだ十分に理解できていないと思われるので、みんながまず共通認識を持って学校、家庭、地域の連携強化にあたりたいものです。
- 事業の見直しや統合により、今後のコミュニティ・スクール推進事業の展開に期待します。

【特色ある学校づくり推進事業】

- 次年度よりコミュニティ・スクール推進事業に統合されるようではあるが、本事業がめざした特色ある学校づくりは、「社会に開かれた教育課程」に基づくカリキュラムマネジメント構築に際して不可欠な内容である。やはりその際には、地域人材と学校とを結びつける地域学校協働活動推進員の確保と研修とがさらに求められよう。
- コミュニティ・スクールの導入により、活動経費が必要な学校に配当を増やしたということですが、必ずしも特色ある学校づくりにかかる経費は、コミュニティ・スクールに関わるものだけとは限らないのではないかと思います。ある程度、学校が自由に予算を活

用できるように配慮していただければと思います。学校が、予算獲得のために様々な活動を無理にコミュニティ・スクールと関連付けを図って予算を確保するといったことがないようにしたいものです。

- 事業の目的の明確化、他事業との関連性を見極めながら、効率的な事業展開になるようお願いします。

【学校保健事業(小学校)(中学校)】

- 就学時オリエンテーション時に行われる検診については、これまで学校それぞれで実施してきましたが、以前から市全体で全学校が協力してできないかとの意見がありました。全体でやることによって、各学校から出す職員の数も絞られ、校医の先生方全体の負担も減るのではないかと思います。

【学校給食事業】

- 令和3年度より給食費が完全無償化されている点は、乳幼児に対する子育て支援と併せ、若い世代には定住・移住のインセンティブとして受け止められ、今後の寒河江市の人口維持・増加にも寄与するものと思われる。大いに評価される。また、地場農産物の積極的な採用も評価できる。
現在は食材の値段高騰等が続いているが、地場農産物など地元食材のさらなる導入も含め、今後も安全で栄養に富み、何よりも美味しい給食の提供に努めていただきたい。
- 給食の完全無償化は、保護者にとっては大変ありがたい事業であると思います。学校にとっても集金未納問題も減っていると思います。是非、給食の質、量が維持されるよう今後とも継続されることを期待します。
- 小・中学校給食費完全無料化は、県内で2番目ということなので、市の教育政策の特色になると思います。さらに、地元食材を多く使うことで、ますます地産地消を推進していくことを期待します。

【読書の盛んな学校づくり事業】

- 乳幼児期から学齢児童生徒までの読書普及活動に積極的に取り組んでいることがうかがわれる。コロナ禍の中での図書館の利用制限（特に滞在時間）や学校での読み聞かせやブックトークに際しても十分な感染対策の徹底のもとに行われていたことが推察され、その負担と尽力に際して改めて敬意を表するところである。
本年度からはブックスタート事業の対面実施や図書館ボランティアグループによる「おはなし会」の開催などが行われていると思われるが、感染対策に十分に留意した上で、読書の意義や楽しさを子どもたちに伝えられるよう、今後の活動の展開に期待するところである。なお、図書館ボランティアグループもだいぶ高齢化が進んでいると聞く。その裾野を広げられるよう、養成講座や中高校生ボランティアとの連携も検討いただきたい。
- 図書管理システムの導入は、学校にとって大変ありがたいものです。図書の貸し借りに手間がかかりません。さらに教育活動補助員の方が、図書環境を整えてくださっていることも大変助かっています。
- 人の配置の統合により、兼務することで細やかな業務展開ができるかどうか、評価の観点を明確にして、効果を検証する必要があると思います。

【図書館管理運営事業】

- 図書館については、駐車場の場所が分かりにくく、狭いことなどが利用しにくいところではないかと思えます。また、正面の広い庭をテラス風にするなどして、みんなが立ち寄ってみたいくなるような雰囲気を作っていただくとよいのではないかと思えます。
- コロナ禍でも、前年より開館日数が若干増えたことで、利用状況が増加傾向にあることは喜ばしいことと思えます。

【図書館資料等購入事業】

- (読書の盛んな学校づくり事業) に同じ。
- 書籍についてはネットで購入できたり、電子ブックが普及したり、また映像などの情報もネットで簡単に入手できる時代となっています。利用者の多様なニーズをどう把握し、整理するかが難しい作業とは思いますが、市民が必要とする図書館になることを期待しています。
- 蔵書の充実に努めることで、図書館の特色を出せるようお願いします。

【読書普及事業】

- (読書の盛んな学校づくり事業) に同じ。
- 事業内容を見ると幼児、小学校低中学年を対象にした事業が主となっているように思います。読書によって自分を見つめたり、生き方を考えたりすることもあります。是非、小学校高学年や中学生が読書に興味を持つような事業も考えていただければと思います。
- コロナ禍でも、様々な工夫を凝らして図書館竣工30周年記念展イベントを実施したことは、成果が認められると思えます。特に、子どもたちが興味を持つ事業を、継続して取り組んでいただきたい。

【芸術文化振興事業】

- コロナ禍で遠出することが難しかったり、高齢で遠出することが難しかったりする方もいるのではないかと思います。近くで豊かな芸術文化に触れる機会が確保されているということは大切なことであると思えます。今後もコンサート等の様々なイベントの企画、開催をお願いします。
- 2年度は事業の全面中止が多かったのが、昨年は入場数を制限するなど、やり方を工夫して市民が芸術文化に触れる機会を提供できたことは評価できると思えます。

【美術館運営事業】

- 潤沢な予算が確保されているとは言えない中、常設展示以外の特別企画展や企画展の内容が非常にセンスよく、若い芸術家の作品展示の場として、また、地元出身芸術家の業績を知らしめるに十分に貢献していると思われる。実行委員会形式の展示はさらに市民への芸術への関心を高める仕掛けとなり得る。今後も継続して工夫した展示づくりがなされることに期待する。
- 芸術文化振興事業と同様、近くで様々な美術作品を鑑賞できる機会は貴重だと思いますので、今後も様々な企画展の開催をお願いします。
- 企画展では予想を上回る来場者で、前年より大幅増加となったことは、魅力のある企画であったからと思えます。このような魅力ある企画展の開催に積極的に取り組むことを希望します。

【基本方針2】学ぶ力を身に付け、未来を切り拓く資質や能力を育む

【教育研究推進事業・学力向上推進事業】

- 学校研究推進、児童生徒の学力向上のためには、実態の把握が不可欠です。その点、各種調査のために予算をしっかりと確保されていることは大変よいことだと思います。
また、学校研究については、それぞれの学校で公開年度のサイクルが決まっていることから、研究の計画も立てやすいのではないかと思います。
さらに、現状に満足することなく、市教委が課題をとらえ、リーディング・スキルなどその分野に対応した手だてを提案していることが大変よいと思います。
- 各種学力検査の結果が前年より上がっていることは喜ばしいが、一過性になることなく継続できるよう願っています。

【学力向上支援員配置事業】

- インクルーシブ教育の実現が謳われる中、特別支援的配慮が必要な児童生徒に関する個別の支援がさらに求められている。正直、昨年度における特別支援教育補助員の数は甚だ少ないと思われる。各小中学校に必ず1名、もしくは複数名の配置が望ましい。ただ、本年度からは同補助員が倍増となる旨の説明があったため効果を検証し、さらに次年度以降の増員をも検討いただきたい。併せて補助員に対する特別支援についての研修の充実もお願いしたい。
- 学力向上支援員の配置は、学校にとっても、子ども達や保護者にとっても大変ありがたい事業です。小1プロブレムと言われるものや特別な支援を要する子どもが増えていること、若い教員が増えていることなどから、支援員の配置の充実が必要だと思います。せめて、小学校においては、小1の学級数+特別支援学級数の人数が配置されればと期待しています。
- 学力向上支援員や特別支援教育補助員は、支援が必要な子どもにとってはなくてはならない制度だと思います。今後事業を統合して、学力向上推進事業として展開するようですが、学習・生活上の支援の低下にならないようお願いしたい。

【スクールバス運行事業】

- スクールバスの運行については要望に丁寧に対応していただいているのではないかと思います。ただ、要望があれば、あちらもこちらもスクールバス対応にすることがないようにルールづくりをしっかりといただければと思います。寒河江市の小学校では長い距離を歩いて通学する子ども達がたくさんいます。それはそれで素晴らしいと感じていますので、安易にバス通学にならないようにしてほしいと思います。
- 小学校閉校に伴い遠距離通学を余儀なくされた児童生徒への支援は、安全性を確保することは勿論ですが、柔軟な対応で運用されることを希望します。

【教育相談事業】

- 不登校児童生徒の学校外の学びの場や居場所を設ける民間施設、さらにはNPO等の団体の存立は、やはり人口規模に規定されるところが大きい。それゆえ、寒陵スクールの存在は大きいものと思われる。ただ、不登校の認知件数と同スクールの利用者数は特に中学校では乖離しており、多様な支援の必要性が浮かび上がる。
現在は学校復帰のみを前提としない不登校児童生徒支援が認められていることを確認

しつつ、オンライン学習をも組み合わせる出席とみなすホームスクーリング的対応も今後の検討に入れていただくとなおよいと思われる。

- 不登校の児童生徒が増加している状況の中、5名の相談員が配置されているというのは学校にとっても保護者にとっても大変よい事業ではないかと思えます。また、6回の不登校予防の研修が計画されていることも素晴らしいことだと思います。是非、多くの担任の先生方が研修に参加し、不登校を減らすことができればと期待しています。
- 不登校の低年齢化が心配であり、相談員を増員するなど対応しているにも関わらず、小・中学校とも不登校の増加が止まらない状況です。これから事業拡充の方針なので、今後の取り組みに期待します。

【障害児通学支援事業】

- この支援はどの自治体にもあるものではなく、それだけで評価できるものである。かつ該当児童生徒の放課後等デイサービス利用に際しても、その便宜を図るものとなっているとのことであり、今後の継続が強く望まれるものである。
- 障がいの状況により、学区外への通学を余儀なくされる児童生徒もおり、教育の機会均等、教育を受ける権利を保障するためにも必要な支援であると思えますので、継続、充実していただきますようお願いいたします。
- 児童生徒の安全面の確保及び保護者の負担軽減の面からも、登下校往復での支援ができるよう、今後とも事業の拡充に努めていただきたい。

【小中学校 ICT 活用支援事業】

- GIGAスクールタブレット支援員による各学校での教職員支援事業の展開ゆえ、早期にICT活用支援が進んだことが推察され評価される。さらには十分な機器確保により、全児童へのタブレット配付が完了し、家庭学習やオンライン授業が早くから展開され、定着していることがうかがわれる。
なおただし、今後、コロナ禍沈静・収束後はコロナ禍以前の「アナクロ」な手法の学び方の意義も再検討することが求められると思われる。教育・指導内容の定着をきちんと丁寧に評価していくことが求められよう。
- さくら連絡網は大変使い勝手がよく、学校からの情報発信など大変有効なものだと思います。また、ペーパーレスにもずいぶんつながっていると思います。
タブレットを利用した家庭訪問や個人面談、授業配信など学校のICT化は、学校の行事や事業も多様な形でできるようになったと思います。ただ、それにこだわりすぎたり、頼りすぎたりということにならなければと思います。
- ICT活用に意欲的に取り組んでいることは、大いに評価できると思います。具体的にどのようなメリットや改善があったかを明らかにすることで、今後の課題や効果の検証がやりやすくなると思います。ICT活用による新たな方向性に期待したいと思います。

【ICT整備推進事業(小学校)(中学校)】

- (小中学校 ICT 活用支援事業) に同じ。
- 他市町に先んじてタブレットの導入など教育のICT化の推進は素晴らしかったと思います。さらにタブレットを有効に活かすためには各教室に電子黒板の常設は欠かせないと思います。是非、迅速、かつ確実に電子黒板の各教室への設置を進めていただきたいと思えます。また、古くなったICT機器の更新等についても計画的にお願いできればと思います。

- ICTが効果的に活用されるためにも、電子黒板を各教室に早急に設置されるよう希望します。

【英語力育成事業】

- 県の課題でもある英語力の向上に向け、ALT、AETの配置や様々な取り組みは大変すばらしいと思います。文科省では小学校においても専科教員の配置なども計画していると思います。是非、外国語活動においても早く専科教員が配置されることを期待しています。
- ALTを増員し、計画的に小・中学校に派遣することにより、外国語活動や外国語学習の充実につながっていると思います。English Dayへの参加が予想以上に増加しているのは、興味を持っているからだと思うので、受入れの対応ができるようお願いしたい。

【さがえっこライフデザインセミナー事業】

- 本事業も次年度よりコミュニティ・スクール推進事業に統合されるようではあるが、本事業が取り組んできたライフデザインおよびキャリア教育に関わる内容は、やはり「社会に開かれた教育課程」に基づくカリキュラムマネジメントの構築と実体化に際して不可欠な内容である。次年度より寒河江市未来コンソーシアム事務局が学校と市内企業とのコーディネートを行うようであるが、その際に学校との十分な協議に基づき、多様・多彩な人材が発掘されて学校に派遣されるよう望む次第である。
- 学級担任が忙しい中でキャリア教育を進めていくのは大きな負担となります。寒河江未来コンソーシアム事務局が、学校と企業の橋渡しをするとのことですので、学校がコンソーシアム事務局の活用の仕方を理解し、その機能を十分活かせる仕組みづくりに努めていただければと思います。
- それぞれ特色ある内容で取り組んでおり、子どもたちが将来のライフデザインを考える機会となっていると思います。市内の企業と連携して、探究的な形での取り組みは、非常に興味深く感じます。

【基本方針3】生涯にわたって、生き生きと学び続ける取組みを推進する

【寒河江さくらんぼ大学推進事業】

- 令和2年度は全面中止となったこともあり、令和3年度はだいぶ工夫されての実施となったようであるが、運営委員会方式による住民参画型の運営が進むことを願う。本事業も評価に報告書が添えられると評価もしやすく、また住民への周知の意味においても意義あるものと思われる。
- この事業が長く続いていること、定員を超える受講者の応募があったこと、話題性やニーズをとらえた講座開設になっているのではないかと思います。是非、今後とも講座の工夫をしながら継続していただきたいと思っています。
- コロナ禍で事業を縮小しながらも実施し定員満了となったことは、事業に対する人気が増えます。要望の強い事業は、是非継続していただきたい。

【生涯スポーツ振興事業】

- コロナ禍によるイベントの中止や縮小が相次ぐ中、工夫して生涯スポーツに関するサービスの提供に当たっていた事がうかがわれる。なお、今後の部活動の地域移行に関わり、市スポーツ協会、総合型スポーツクラブ等での部活動指導への積極的な関与・支援も検討し始めていただきたい。具体的には、部活動指導員の継続的な確保と養成に関する取り組みも事業化を検討していただきたい。
- 数多くの競技、様々な競技レベルの方がおり、競技によっては特別な機材や施設が必要になることなどから、多くの人にスポーツに参加してもらうために様々なご苦勞があるのではないかと思います。是非より多くの市民がスポーツに親しめる事業の企画、運営をお願いします。
- スポーツに取り組む気持ちを取り戻すような、魅力的な企画を期待します。大きな大会等は難しくても、形を変えて実施できる工夫をお願いしたいと思います。今後の事業の拡充に期待します。

【体育施設整備事業】

- 施設なしにスポーツ振興はないと思いますので、適切な施設の充実、管理をお願いします。現在、各学校の社会体育施設は、スポーツ少年団等の主な活用場所となっています。学校統合に伴い解体される体育館などもあると思いますが、スポーツ少年団の活動の場、地域の人がスポーツをする場として維持するもの、解体すべきものの検討をお願いいたします。
- これからも安全・快適で良好な利用環境の維持をお願いします。

【地域スポーツ活性化推進事業】

- (生涯スポーツ振興事業)に同じ。
- 各種大会やイベントは、交流人口の増加や経済的な効果が期待できる事業ではないかと思えます。人手もかかりますし、大きなお金も扱わなければならないこともあり、ご苦勞もかなりのものと思えますが、多くの方がスポーツに関わることでできるものであると思えますので、安全、安心な運営をお願いします。
- 「するスポーツ、見るスポーツ、支えるスポーツ」の考えで、新しいスポーツのスタイルを模索し、スポーツの盛んな市を目指していただくことを期待しています。

【基本方針4】ふるさとに誇りを持ち、郷土の歴史と文化を大切にすることを養う

【市史編纂事業】

- 歴史資料の収集や古文書の解読、それによる寒河江市史編纂叢書の刊行は研究者や歴史愛好家のみならず、学校における探究型学習の深化に際しても重要なものとなる。今後も成果公表を工夫しつつ、調査研究を継続・深化させていただきたい。
- 市史編纂については、故郷を知る貴重な資料を作成していただいていると思えます。今後とも市史編纂専門員体制を維持していただければと思います。
- 地道な作業を多くの時間をかけて進めるのは大変なことです。次の世代に残すためにも、事業を継続して欲しい。

【文化財保護庶務事業】

- 全戸配付およびHPにアップされた大江氏ゆかりの地紹介マップは、学校および公民館等での活用も期待される。今後も同様に文化財紹介のマップや動画などの作成と公開とを続けていただきたい。
- 貴重な文化財について適切に保護、管理が行われ、それが学習や観光に等に活かされるようお願いいたします。
- 大河ドラマの影響で「大江公ゆかりの地」として情報発信することができましたが、一過性のものにならないよう、この機会を活かしていただきたい。

【埋蔵文化財調査事業】

- 文化財調査および保護の事業は継続して続けていただきたい。なお、寒河江市には常設の歴史系資料館がないが、同様の施設状況にある南陽市のように、発掘された土器・石器類等を学校で巡回展示することなども試みてよいかもしれない。児童生徒に地域の歴史・文化に関する関心を喚起するものともなろう。
- 調査は時間のかかるものだと思いますが、埋蔵文化フェア等への来場者数から、市民の歴史への関心の高さがうかがえます。是非、調査、研究、記録を進めていただき、市の宝を増やして行ってほしいものです。
- 「埋蔵文化財フェア」は来場者が多く、市民にとって魅力ある企画だったと思います。引き続き、文化財に対する市民の意識高揚に努めてくださるようお願いいたします。

【郷土館保存事業】

- 小学生の活用だけでなく、特別展や一般公開等によって、是非その活用を広げて行っていただければと思います。

【基本方針5】

教育を取り巻く環境や社会の変化に応じた取組みを推進する

【学校職員衛生管理事業】

- 学校の労働環境が少しでも改善され、職員の健康が維持増進されるような取組みをお願いいたします。
- 「学校職員衛生委員会」を設置したことにより、ストレスチェックの受診率のアップにつながったものと考えます。ただし、受診して問題が解決するわけではありませんので、受診結果をメンタル面での健康維持に役立てていただきたい。

【教育振興事業(小学校)(中学校)】

- デジタル教科書などICT化に伴い必要になってくる教材も必要であり、また、理科備品や具体物なども大切な教材だと思います。予算は増えるばかりだとは思いますが、よろしくをお願いいたします。
- 1人1台タブレットPCの有効活用のためにも、デジタル教科書の導入を加速して進めるべきと考えます。

【就学援助事業(小学校)(中学校)】

- 「子どもの貧困」の進展が懸念される中、学校と生活保護担当および健康福祉担当との連携のもと、継続して適切に進めてもらいたい事業である。オンライン学習通信費の設定は高く評価できる。
- 物価高騰もあり、援助を必要とする家庭においては大変な時期であると思います。確実な執行をお願いいたします。
- オンライン学習通信費を追加して援助するようにしたことは、家庭学習におけるICT活用を支援するものであり、援助の必要な分野だと思います。

【学校管理事業(小学校)(中学校)】

- 学校の老朽化もあり、侵入しようと思えば、どこからでも入れるのではないかと思います。死角のないカメラの設置をすすめてはどうでしょうか。
- 新型コロナ対策として、小・中学校全ての水飲み場等の自動水栓化をスピーディに実施したことは、時機を得た対応であると思います。それにより、水道量が大きく削減されたことは、思わぬ産物として喜ばしいことと思います。

【公民館活動事業】

- 県内の自治体では地区公民館をコミュニティセンターにして首長部局に所管を移行させ、併せて地域運営団体を指定管理者として運営を地域委託とすることが進んでいる。その点、寒河江市は条例公民館および直営の形態が継続されている(柴橋は条例公民館とコミュニティセンターの併設)。多くの分館との連絡調整業務もあってその形態が維持されていると思われるが、むしろ行政直営型公民館の強みである、行政内連携のしやすさを全面に打ち出し、公民館を窓口として福祉・医療・農林行政等にもつなげていく、「ワンストップサービス」の提供も進めていただければ幸いと考える。
- コロナ禍により、ここ2～3年公民館事業が中止や縮小という状況であったかと思えます。もとの状況に戻るまでは、しばらくかかるのではないかと思います。しかし、コロナが収束した後、公民館活動が以前のようなものに戻るのかどうか疑問に思います。是非そうした状況にならないような支援をお願いします。
- コロナ禍で事業の多くが中止や縮小開催となっており、Withコロナ・Afterコロナでどのような事業のあり方がよいのか、改めて検証する必要があると考えます。

【公民館整備事業】

- 今後も計画的な公民館の整備をよろしくをお願いします。
- 100戸以上の分館への公民館整備に対する補助率を拡充することで、整備が進み地域の方々が快適に利用できることを期待します。

【放課後子ども教室推進事業】

- コロナ禍による中止や縮小が強いられる中、工夫して子どもたちの学びの支援や展開に貢献していると思われる。放課後子ども総合プランとして、学童との連携状況があると思われるが、土曜日や長期休業中の事業実施は学童関係者からも大いに歓迎されるものとなるため、今後の活動の展開に期待するところである。

- 子ども達が、学校を離れて活動するということが難しくなっていると思います。遊びや伝統行事・文化等に触れたり、体験したりする機会をたくさん作って、多くの子ども達が参加できるようになればと思います。
- 地域の特色を活かしながら、子どもたちの社会性や自然体験の大事な機会として、引き続き工夫して実施していただきたい。

【教育委員会事務局管理事業】

- 難しい問題だと思いますが、それぞれの地域の方々が納得のいく学区の再編、学校統廃合になるように進めていただければと思います。廃校跡地や施設の利活用等も含め検討をお願いします。また、喫緊の課題として、部活動の地域移行について、文化部や小学校の課外活動(金管バンド等)も含め、検討していただければと思います。
- 「学校施設整備計画」については、各地区で説明会を実施しているとは思いますが、今後ともきめ細かく、丁寧な説明を継続してくださるようお願いいたします。

V 点検・評価対象事業一覧

市教育振興計画における 基本方針	事業名	担当課	主要施策	ページ
【基本方針1】 豊かな心と健やかな体を育む	青少年健全育成事業	生涯学習課	1-1	20
	さがえっこ育み推進事業	学校教育課	1-1, 2, 3, 4	21
	特色ある学校づくり推進事業	学校教育課	1-1, 2, 3, 4 2-6 4-1, 2	22
	学校保健事業	学校教育課	1-2	23
	学校給食事業	学校教育課	1-3	24
	読書の盛んな学校づくり事業	学校教育課	1-4	25
	図書館管理運営事業	生涯学習課	1-4	26
	図書資料等購入事業	生涯学習課	1-4	27
	読書普及事業	生涯学習課	1-4	28
	芸術文化振興事業	生涯学習課	1-5	29
	美術館運営事業	生涯学習課	1-5	30
【基本方針2】 学ぶ力を身に付け、未来を切り拓く資質や能力を育む	教育研究推進事業・学力向上推進事業	学校教育課	2-1	31
	学力向上支援員配置事業	学校教育課	2-1, 2	32
	スクールバス運行事業	学校教育課	2-1	33
	教育相談事業	学校教育課	2-2	34
	障害児通学支援事業	学校教育課	2-2	35
	小中学校ICT活用支援事業	学校教育課	2-3	36
	ICT整備推進事業(小中学校)	学校教育課	2-3	37
	英語力育成事業	学校教育課	2-4	38
	さがえっこライフデザインセミナー事業	学校教育課	2-6	39
【基本方針3】 生涯にわたって、生き生きと学び続ける取組みを推進する	寒河江さくらんぼ大学推進事業	生涯学習課	3-1	40
	生涯スポーツ振興事業	スポーツ振興課	3-2	41
	体育施設整備事業	スポーツ振興課	3-2	42
	地域スポーツ活性化推進事業	スポーツ振興課	3-2	43
【基本方針4】 ふるさとに誇りを持ち、郷土の歴史と文化を大切に する心を養う	市史編纂事業	生涯学習課	4-2	44
	文化財保護庶務事業	生涯学習課	4-2	45
	埋蔵文化財調査事業	生涯学習課	4-2	46
	郷土館保存事業	生涯学習課	4-2	47
【基本方針5】 教育を取り巻く環境や社会 の変化に応じた取組みを推進する	学校職員衛生管理事業	学校教育課	5-1	48
	教育振興事業(小中学校)	学校教育課	5-1	49
	就学援助事業(小中学校)	学校教育課	5-1	50
	学校管理事業(小中学校)	学校教育課	5-2	51
	公民館活動事業	生涯学習課	5-3	52
	公民館整備事業	生涯学習課	5-3	53
	放課後子ども教室推進事業	生涯学習課	5-3	54
教育委員会事務局管理事業	学校教育課	5-4	55	

事務事業点検・評価調査

1. 事業名等

事業名	青少年健全育成事業	所管課・係	生涯学習課
			生涯学習係
施策体系	【基本方針1】 豊かな心と健やかな体を育む 1 思いやりの心を育み、命や生き方を大切にする教育の推進 多様な体験と規範意識の醸成 基本的な生活習慣の確立	予算科目	10 教育費 4 社会教育費 7 青少年育成センター費

2. 事業の概要

事業目的	市青少年育成センターを中心に、関係団体と一体となって街頭指導や広報活動を実施し、青少年の健全育成を図る。
事業内容	(1)青少年教育関係諸団体と連携を図りながら、市青少年育成センターによる街頭指導や環境浄化活動等を行う。 (2)青少年育成推進員を委嘱し、地域における青少年の健全育成と非行防止を図るための活動を推進する。 (3)青少年が直面する課題の共有を図るため寒河江市青少年育成市民会議による「子ども・若者健全育成研修会」を行う。

3. 予算額・決算額

(単位:千円 千円未満切上げ)

R2	当初予算額	528	補正額等	合計	528	決算額	191
R3	当初予算額	473	補正額等	合計	473	決算額	189

4. 事業の実施状況

<p>(1) 例年実施している、夕刻・夜間街頭指導については、コロナ禍ということもあり、令和2年度に続き実施できなかった。 (2) 具体的な活動は、青少年育成推進員の村山地区の研修会への参加と、啓発広報誌の配布等にとどまった。</p>

5. 事業の効果及び評価

<p>コロナ禍が収まらない状況の中で、予定していた夕刻・夜間街頭指導、並びに青少年健全育成研修会などの事業は、不特定多数の人と青少年育成推進員や関係者が触れ合う機会が多くなってしまったため、実施できなかった。</p>
--

6. 今後の対応等

方向性	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 縮小 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し <input type="checkbox"/> 休廃止
今後の対応	<p>(1) コロナ禍により、二年間主な事業が実施できない状態となったことから、組織体制も含めてこれからの活動に何が必要かをもう一度検討したうえで、青少年教育関係諸団体とも相談しながら、市青少年育成センター組織体制の立て直しを図っていく。 (2) 街角のコンビニエンスストア等での成人向け雑誌の取り扱い中止など、目に見える危険が減少する一方で、インターネット犯罪に巻き込まれるケースや、インターネット関連のいじめ等の目に見えない少年犯罪が増える傾向にあり、現状に合った活動内容を検討していく。</p>

事務事業点検・評価調書

1. 事業名等

事業名	さがえっこ育み推進事業	所管課・係	学校教育課 指導推進室 指導係									
施策体系	<p>【基本方針1】 豊かな心と健やかな体を育む</p> <p>1 思いやりの心を育み、命や生き方を大切にする教育の推進 多様な体験と規範意識の醸成 基本的な生活習慣の確立 学校・家庭・地域が連携した命と生き方を考える教育の推進</p> <p>2 健やかな体を育む取組みの推進 元気に遊ぶ子どもの育成</p> <p>3 食育の推進 豊かな心と命を育む食育の推進</p> <p>4 心を育む読書活動の推進 自主的な読書活動の支援</p>	予算科目	<table border="1"> <tr> <td>款</td> <td>10</td> <td>教育費</td> </tr> <tr> <td>項</td> <td>1</td> <td>教育総務費</td> </tr> <tr> <td>目</td> <td>3</td> <td>教育指導援助費</td> </tr> </table>	款	10	教育費	項	1	教育総務費	目	3	教育指導援助費
款	10	教育費										
項	1	教育総務費										
目	3	教育指導援助費										

2. 事業の概要

事業目的	子どもたちを育むための指針「さがえっこの育み10か条」を核とし、学校・家庭・地域が連携しながら広くその取り組みを推進し、未来を担う子ども達を健やかに育む。
事業内容	さがえっこ育み推進本部を設置し、事業の周知啓発を行う。また、各小中学校区に学校支援地域本部を設置し、地域で学校を支援する仕組みづくりを行う。

3. 予算額・決算額

(単位:千円 千円未満切上げ)

R2	当初予算額	7,601	補正額等		合計	7,601	決算額	5,533
R3	当初予算額	12,021	補正額等		合計	12,021	決算額	6,826

4. 事業の実施状況

<p>(1)「さがえっこの育み10か条」の周知</p> <p>①リーフレット・ポスターとのぼり旗を作成し、市内各学校・幼稚園・保育所・子供園・公民館等へ配布。</p> <p>②街角テレビ啓発用動画を市内各小中学校が作成・放映。</p> <p>(2)学校・家庭・地域連携協働</p> <p>①市内10の小中学校でコミュニティ・スクールを導入(R2 5校)。</p> <p>②各小中学校に地域学校協働本部を設置し、地域住民が学校を支援する学校支援ボランティア活動を推進 ※学校支援ボランティアの年間延べ実績人数 48,592人(R2 30,605人)</p> <p>(3)部活動指導員の配置</p> <p>①部活動指導員を1名、各中学校へ配置し、部活動中の生徒の安全確保とともに、アドバイスによる技術向上につなげた。</p>
--

5. 事業の効果及び評価

<p>(1)「さがえっこの育み10か条」について、児童生徒が啓発動画を作成し放映することで、児童生徒の10か条への意識を揮発するとともに、市民への周知を行った。</p> <p>(2)学校・家庭・地域連携協働推進事業についてもすべての小中学校に「地域学校協働本部」を設置し、学校支援ボランティア活動を展開した。</p> <p>(3)部活動指導員が様々な部活で指導をすることで、柔軟な部活動の展開を行うことができ、部活動の活動保証と教員の負担軽減につながった。</p>
--

6. 今後の対応等

方向性	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 見直し <input type="checkbox"/> 休廃止
今後の対応	令和4年度は、さがえっこ育み推進事業・特色ある学校づくり支援事業・さがえっこライフデザインセミナー事業を統合して、コミュニティ・スクール推進事業を展開する。

事務事業点検・評価調書

1. 事業名等

事業名	特色ある学校づくり推進事業	所管課・係	学校教育課 指導推進室 指導係									
施策体系	<p>【基本方針1】 豊かな心と健やかな体を育む 1 思いやりの心を育み、命や生き方を大切にする教育の推進 多様な体験と規範意識の醸成 基本的な生活習慣の確立 学校・家庭・地域が連携した命と生き方を考える教育の推進</p> <p>2 健やかな体を育む取組みの推進 元気に遊ぶ子どもの育成</p> <p>3 食育の推進 豊かな心と命を育む食育の推進</p> <p>4 心を育む読書活動の推進 自主的な読書活動の支援</p> <p>【基本方針2】 学ぶ力を身に付け、未来を切り拓く資質や能力を育む 6 キャリア教育の推進 社会的・職業的自立に向けた教育の推進</p> <p>【基本方針4】 ふるさとの誇りを持ち、郷土の歴史と文化を大切にする活動の推進 1 ふるさとへの愛情と誇りを育む教育の推進 地域の歴史や文化、自然を活用した教育活動の推進 2 郷土の歴史と文化を大切にする活動の推進 民俗芸能や伝統行事の保護と伝承</p>	予算科目	<table border="1"> <tr> <td>款</td> <td>10</td> <td>教育費</td> </tr> <tr> <td>項</td> <td>1</td> <td>教育総務費</td> </tr> <tr> <td>目</td> <td>3</td> <td>教育指導援助費</td> </tr> </table>	款	10	教育費	項	1	教育総務費	目	3	教育指導援助費
款	10	教育費										
項	1	教育総務費										
目	3	教育指導援助費										
教育振興計画												

2. 事業の概要

事業目的	児童生徒がふるさとを知り、学び、体験し、郷土を愛する心を育む教育活動並びにふるさとの未来を担う児童生徒に豊かな心や健やかな体を育む教育活動を支援する
事業内容	子どもたちの学力や体力・道徳心の向上、基本的な生活習慣の確立など、学校が家庭や地域と連携して取り組む活動や、地域の実態に応じた特色ある教育活動を支援する。

3. 予算額・決算額

(単位:千円 千円未満切上げ)

R2	当初予算額	4,200	補正額等	890	合計	5,090	決算額	4,188
R3	当初予算額	3,000	補正額等	0	合計	3,000	決算額	3,000

4. 事業の実施状況

<p>各学校では、第2次教育振興計画の基本目標に迫るため本事業を活用し、家庭や地域と連携した取組を展開している。豊かな心と健やかな体づくりの学習・・・食育推進活動や子どもの生活リズムの確立を図る活動、読書の盛んな学校づくり活動などふるさとに関わる学習・・・慈恩寺の歴史にまつわる学習、太鼓や田植え踊り、大黒舞などの伝統芸能・文化を活かした学習など</p>

5. 事業の効果及び評価

<p>(1)各学校では、趣旨に基づいて本事業を有効に活用し、学校における特色ある教育活動や体験的な活動を計画し展開している。 (2)予算については、適正かつ有効な配分になるように、学校規模や児童生徒数だけでなく、提出された事業計画を十分に精査し、事業の重要度や必要性等を考慮しながら配当を行っている。→コミュニティスクールの導入により活動の経費が必要な学校に配当を増やした。</p>

6. 今後の対応等

方向性	<input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 見直し <input type="checkbox"/> 休廃止
今後の対応	令和4年度は、さがえっこ育み推進事業・特色ある学校づくり支援事業・さがえっこライフデザインセミナー事業を統合して、コミュニティ・スクール推進事業を展開する。

事務事業点検・評価調書

1. 事業名等

事業名	学校保健事業	所管課・係	学校教育課 学事係
施策体系 教育振興計 画	【基本方針1】 豊かな心と健やかな体を育む 2 健やかな体を育む取組みの推進 元気に遊ぶ子どもの育成	予算科目	10 教育費 2.3 小学校費、中学校費 2 学校保健費

2. 事業の概要

事業目的	児童生徒の健康管理、学習環境の適正維持を図る。
事業内容	児童生徒の健康保持管理のため各種検診を実施するとともに、適切な学習環境を維持するため、保健用備品、消耗品等の整備、日常検査及び定期検査等を行う。 また、災害共済給付制度、学校災害賠償補償保険に加入し、学校管理下での事故等に備える。

3. 予算額・決算額

(小学校費)

(単位:千円 千円未満切上げ)

R2	当初予算額	18,338	補正額等	13,768	合計	32,106	決算額	30,606
R3	当初予算額	15,977	補正額等	0	合計	15,977	決算額	15,049

(中学校費)

R2	当初予算額	8,871	補正額等	5,746	合計	14,617	決算額	13,455
R3	当初予算額	7,634	補正額等	0	合計	7,634	決算額	6,960

4. 事業の実施状況

<p>(1) 児童・生徒検診</p> <p>①身体計測・内科・眼科・歯科各検診 ④尿検査</p> <p>②耳鼻科検診 ⑤貧血検査</p> <p>③心電図検査</p> <p>(2) 環境衛生検査(飲料水、照度、ダニアレルゲン、プール水質検査)</p>
--

5. 事業の効果及び評価

<p>児童生徒の健康増進と適切な学習環境の向上を推進するため、学校保健安全法等に定める各種検診及び法令等に基づいた環境衛生検査を実施した。</p>

6. 今後の対応等

方向性	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 見直し <input type="checkbox"/> 休廃止
今後の対応	<p>児童生徒の各種検診を実施し健康維持増進を図るとともに、環境衛生検査を実施し、良好な学習環境の整備に繋げる。 新型コロナウイルス感染症対策として、消毒用アルコールを継続して購入する。</p>

事務事業点検・評価調書

1. 事業名等

事業名	学校給食事業	所管課・係	学校教育課 学事係
施策体系	【基本方針1】 豊かな心と健やかな体を育む 3 食育の推進 豊かな心と命を育む食育の推進 地産地消の推進	予算科目	款 10 教育費 項 2.3 小学校費、中学校費 目 2 学校保健費

2. 事業の概要

事業目的	学校給食を実施することにより、児童生徒の心身の健全な発達に資するとともに、食に関する正しい理解と適切な判断力を養う。
事業内容	小学校では自校調理方式、中学校では民設民営による給食センター方式により完全給食を実施する。

3. 予算額・決算額

(小学校費)

(単位:千円 千円未満切上げ)

R2	当初予算額	144,385	補正額等	5,725	合計	150,110	決算額	137,176
R3	当初予算額	216,373	補正額等	0	合計	216,373	決算額	207,333

(中学校費)

R2	当初予算額	201,072	補正額等	3,334	合計	204,406	決算額	196,625
R3	当初予算額	175,846	補正額等	0	合計	175,846	決算額	170,349

4. 事業の実施状況

(1) 小中学校給食費の完全無料化
(2) 給食調理業務の民間委託(西根小、柴橋小、高松小、寒河江中部小、南部小、中学校3校にて実施)
(3) 「さがえ食育の日」に合わせ、給食を生きた教材として各学校で食育指導を行い、食に対する正しい知識や望ましい食習慣を育てた。
(4) 給食日より等で地場農産物を使用した給食を紹介したり、給食レシピを保護者や地域の方に配布したりして、地場農産物の積極的な利用を働きかけた。
(5) 各種会議・研修会の開催 献立作成会議、給食主任会の開催(調理師研修会、調理師・給食主任合同研修会は中止)
(6) 寒河江市産の雪中イチゴをとおして地元食材の美味しさを児童に知ってもらうとともに、市内の経済活性化を行った。 (新型コロナウイルス感染症対策として)

5. 事業の効果及び評価

令和3年度より学校給食費の完全無料化を実施。 (小中学校給食費無料化は、県内で鮭川村に続き2番目)
--

小学校	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3
給食費	260	260	260	260	260	260	280	280	280	300	300
給食費 市助成	—	—	—	—	—	—	140	140	140	160	300
給食費 保護者負担	260	260	260	260	260	260	140	140	140	140	0
中学校	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3
給食費	295	295	295	295	295	295	310	310	310	330	330
給食費 市助成	—	—	—	—	—	—	15	15	155	175	330
給食費 保護者負担	295	295	295	295	295	295	295	295	155	155	0

中学校給食は、平成23年度開始

6. 今後の対応等

方向性	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 見直し <input type="checkbox"/> 休廃止
今後の対応	・学校給食費の完全無料化を継続実施。 ・給食用米飯について、令和4年度から、村山管内4市4町によって設置された「山形広域炊飯施設」(山形市)から購入しており、前年度より安価な購入が可能となった。

事務事業点検・評価調書

1. 事業名等

事業名	読書の盛んな学校づくり事業	所管課・係	学校教育課 指導推進室 指導係
施策体系	【基本方針1】 豊かな心と健やかな体を育む	予算科目	10: 教育費
教育振興計画	4 心を育む読書活動の推進		1: 教育総務費
	本が好きな子どもの育成		3: 教育指導援助費

2. 事業の概要

事業目的	読書の盛んな学校づくりの推進を図り、読書好きな子どもを育成する。
事業内容	(1) 教育活動補助員を学校に配置し、学校における読書環境の整備を行うとともに、読み聞かせやブックトーク等の実践により国語科の授業を充実させる。 (2) 「図書館管理システム」を有効に活用することにより、児童生徒の読書環境の充実を図る。 (3) 教育活動補助員会議を開催し、中学校区の教育活動補助員間の連携を図る。

3. 予算額・決算額

						(単位:千円 千円未満切上げ)		
R2	当初予算額	7,417	補正額等	0	合計	7,417	決算額	7,219
R3	当初予算額	26,407	補正額等	0	合計	26,407	決算額	24,553

4. 事業の実施状況

(1) 教育活動補助員(旧:読書活動推進員・事務補助員・業務補助員の配置)
① 配置人数 15名(R2:読書活動推進員5名、事務補助員8名、業務補助員6名)
② 配置校 寒河江小・南部小・西根小・柴橋小・高松小・醍醐小・白岩小・三泉小・陵南中……各1名 寒河江中部小・陵東中・陵西中……各2名
③ 業務内容 児童生徒への読書指導及び図書選定の助言、図書室の整備、学習支援 その他児童生徒の読書活動推進のための業務(読み聞かせ、ブックトーク、ビブリオバトル、読書推進講座) 事務補助(中学校は、給食配膳業務を兼ねる)
(2) 読書環境の整備
① 図書館管理システムのサポート業務の委託 除籍・廃棄作業
(3) 教育活動補助員会議の開催(5月:中学校区ごと、8月:市全体、12月:中学校区ごと)

5. 事業の効果及び評価

教育活動補助員会議を年3回開催し、市内各小・中学校の読書推進活動の内容を共有したり、市立図書館との連携を図ったりすることができた。 特に、8月の会議では、ブックトークや読み聞かせなど、読書推進活動について演習を通して理解を深めることができた。
--

6. 今後の対応等

方向性	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 見直し <input type="checkbox"/> 休廃止
今後の対応	令和4年度は、学力向上支援員配置事業、英語力育成事業、読書の盛んな学校づくり支援事業を統合して、学力向上推進事業を展開する。

事務事業点検・評価調書

1. 事業名等

事業名	図書館管理運営事業	所管課・係	生涯学習課 図書館・業務係
施策体系	【基本方針1】 豊かな心と健やかな体を育む 4 心を育む読書活動の推進 本が好きな子どもの育成 自主的な読書活動の支援	予算科目	10 教育費 4 社会教育費 5 図書館費

2. 事業の概要

事業目的	図書館の機能充実と良好な環境の維持を図るため、施設の保守管理や修繕等を行い、利用者の利便性の向上を図る。
事業内容	(1) 図書館機能の充実と施設の適切な維持管理を行うため、空調機器保守点検、清掃や機械警備を業務委託する。 (2) 経年劣化に伴う施設設備の整備、修繕を計画的に行う。 (3) 更なる読書環境の充実のため、市民のニーズに的確に対応する管理運営を行う。

3. 予算額・決算額

(単位:千円 千円未満切上げ)

R2	当初予算額	30,371	補正額等	1,485	合計	31,856	決算額	28,427
R3	当初予算額	30,322	補正額等	1,003	合計	31,325	決算額	29,359

4. 事業の実施状況

(1)保守点検、管理運営業務等	① 業務委託：設備管理、機械警備、館内清掃、冷暖房設備保守、自動ドア保守、エレベーター保守、コンピューター保守、外 ② 賃借：図書館情報システム、駐車場、館内BGM、外
(2)工事、修繕等	省電力化のための開架室及びレファレンス室の照明器具LED化改修工事や、冷温水発生機の部品交換修繕、非常灯バッテリー交換修繕等を行った。
(3)利用状況	コロナ禍により一時閉館、また利用者や利用時間の制限を行いながらの開館となった。 ① 入館者数 68,476人 (前年度 66,871人) ② 貸出者数 30,363人 (前年度 26,987人) ③ 貸出登録者数 14,444人 (前年度 13,848人) ④ 貸出冊数 139,254冊 (前年度 119,583冊) ⑤ 開館日数 318日 (前年度 291日)

5. 事業の効果及び評価

(1) 開架室及びレファレンス室照明のLED化により、読書環境の改善及び施設維持費の削減が図られた。
(2) 消防設備(非常灯バッテリー)や冷温水発生機の部品交換修繕、雨漏りを修繕し施設の安全維持に努めた。
(3) 建築物劣化度調査を実施し、今後の施設維持管理について検討した。

6. 今後の対応等

方向性	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 見直し <input type="checkbox"/> 休廃止
今後の対応	(1) 図書館施設の適切な管理運営に努め、安全で快適な環境の維持により、利用者サービスの向上を図る。 (2) 支援を必要とする方や中学・高校生の入館者など多様な館内利用に対応し、貸出者、貸出冊数の増加を図る。 (3) 建築物劣化度調査の結果をもとに、今後の施設維持を見据えた改修工事等を計画する。 (4) 生涯学習の拠点施設として、誰もがいつでも快適に利用できる図書館づくりをさらに推進する。

事務事業点検・評価調書

1. 事業名等

事業名	図書資料等購入事業	所管課・係	生涯学習課 図書館・業務係
施策体系	【基本方針1】 豊かな心と健やかな体を育む 4 心を育む読書活動の推進 本が好きな子どもの育成 自主的な読書活動の支援	予算科目	10 教育費 4 社会教育費 5 図書館費

2. 事業の概要

事業目的	公立図書館に備えておくべき蔵書の整備を基本とし、図書資料等の充実を図る。
事業内容	(1) 一般図書、児童図書、視聴覚資料(DVD等)、雑誌等について、「図書館資料選定要領」に基づき、計画的に購入する。 (2) 図書館の特色や、利用者のニーズに対応しながら、蔵書の整備を進める。

3. 予算額・決算額

(単位:千円 千円未満切上げ)

R2	当初予算額	9,230	補正額等	0	合計	9,230	決算額	8,969
R3	当初予算額	9,425	補正額等	0	合計	9,425	決算額	9,226

4. 事業の実施状況

(1) 図書館蔵書状況(令和4年3月末)			
① 一般書	107,969冊	(前年度	105,537冊)
② 児童書	32,219冊	(前年度	31,990冊)
③ 視聴覚資料(音響・映像)	2,736点	(前年度	2,712点)
④ 雑誌等	3,551冊	(前年度	3,607冊)

5. 事業の効果及び評価

(1) 乳幼児期からの読書習慣を涵養するため、ブックスタート絵本の継続購入や、児童書、おはなし会用の大型絵本、紙芝居等の蔵書充実を図った。(児童書980冊購入)
(2) 図書館に備えるべき図書資料等の整備を基本とし、更に、ニーズの高い新刊図書資料の整備に適時に応え、また、障がい者向け図書、英訳図書等の充実を図り、より多様な蔵書の提供を行った。(一般書2,989冊、視聴覚資料20点、雑誌等851冊購入)
(3) 前年度に続き、市内小中学校の担当教諭、教育活動補助員と連携し、学習や読書活動に必要な図書資料を購入し、各学校における教科学習や特別活動での活用を図った。(外国語図書は、ALTが「外国語」で活用)

6. 今後の対応等

方向性	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 見直し <input type="checkbox"/> 休廃止
今後の対応	(1) 各世代の利用者ニーズを的確に把握し、図書資料を継続的に購入していく。 (2) 引き続き点字図書、CD、LLブック等の視覚・聴覚障がい者向け図書、パイリング図書、英訳図書等の多様なニーズに対応する図書資料の整備充実を図っていく。 (3) 小中学生の学習に資する図書資料を整備するとともに団体貸出を図り、児童・生徒の利用拡大を目指す。 (4) 郷土に根ざした図書館を目指し、慈恩寺、さくらんぼ、大江公に関する図書資料の充実努める。

事務事業点検・評価調書

1. 事業名等

事業名	読書普及事業	所管課・係	生涯学習課 図書館・業務係
施策体系	【基本方針1】 豊かな心と健やかな体を育む 4 心を育む読書活動の推進 本が好きな子どもの育成 自主的な読書活動の支援	予算科目	10 教育費 4 社会教育費 5 図書館費

2. 事業の概要

事業目的	読書への興味と関心を促すため、読書機会の提供と啓発に努め、魅力ある図書館づくりを進める。
事業内容	読書推進団体との連携を深め、図書館自主事業や図書推薦コーナー等を継続的に実施する。

3. 予算額・決算額

						(単位:千円 千円未満切上げ)		
R2	当初予算額	2,928	補正額等	0	合計	2,928	決算額	968
R3	当初予算額	3,085	補正額等	0	合計	3,085	決算額	1,466

4. 事業の実施状況

(1) 定例事業
① 図書館ボランティアグループ(4団体)による「おはなし会」の開催(コロナ禍により大半は中止を余儀なくされた)
② 子どもに読ませたい本のコーナーの設置(通年) ③ 「ブックテーマコーナー」「ミニブックテーマコーナー」の設置(通年)
④ 「最新新刊書コーナー」「ティーンズコーナー」及び「障がい者図書」「多言語図書」の充実
⑤ 新入生及び未登録児童の一斉登録事業の実施(155名 前年度126名)
⑥ 市子育て推進課、健康福祉課との連携で「ブックスタート事業」を配本のみで実施(12回 前年度12回)
⑦ 乳幼児と保護者を対象とした「絵本の部屋」を図書館において開催(18回 前年度6回)
⑧ 展示ホールを活用した多様な展示会等を開催(出展件数 16件 前年度16件)
(2) 図書館自主事業
① 「くすくす人形劇公演」の開催(10月13日 128名 10月14日 141名 市内年長児対象(前年度9月17日196名、10月29日162名))
② 図書館まつり(図書館竣工30周年記念展イベントとして夏と秋に実施) 図書館30周年記念イベントinサマー(7月21日～8月25日) ・チェリンのぬり絵大募集 ・おすすめの一冊大募集 ・十二神将しおりプレゼント ・リサイクル本プレゼントなど 図書館30周年記念イベントinオータム(10月26日～11月21日) ・夏休み課題等市内小中高生作品展 ・リサイクル本プレゼント ・チェリン撮影会 おはなし会など
③ やまがたの文学を探る(10月30日 22名) 若手作家黒木あるじ氏と深町秋生氏のトークショー 演題「これからの山形での創作活動と可能性について」 (東北芸術工科大学とのコラボレーション企画として実施)
④ 安孫子荻聲ギャラリー常設展示
● コロナ禍による延期・中止等事業: ① 読書講演会「室井滋・長谷川義史の絵本ライブ」

5. 事業の効果及び評価

<p>コロナ禍により4月中旬まで臨時休館を余儀なくされ(開館日数: 平年の97%)、また開館時には警戒レベルに応じて館内滞在時間を30分～3時間(ほぼ年間通して)にした中で、図書館自主事業の内容改善に取り組み、読書への興味を呼び起こし、読書を習慣づけるきっかけづくりを行った。</p> <p>図書館竣工30周年の年度であったため、図書館まつり(夏・秋)を30周年記念展イベントとし、期間を長くし密にならない様にして実施した。また、チェリンを活用することで、幼児や小中学生が図書館に来館するきっかけとなった。</p>

6. 今後の対応等

方向性	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 見直し <input type="checkbox"/> 休廃止
今後の対応	定例事業については、ブックテーマコーナー等で興味・関心のある図書の紹介や、ボランティア団体によるおはなし会を継続して実施する。また、図書館自主事業については、各年代が参加できるような事業を計画し、図書館に来館するきっかけを作り、読書への興味と関心を促す。

事務事業点検・評価調書

1. 事業名等

事業名	芸術文化振興事業	所管課・係	生涯学習課 文化センター事業管理係
施策体系	【基本方針1】 1 豊かな心と健やかな体を育む 5 芸術文化に親しみ、創造の喜びを育む取組みの推進 芸術文化に触れる機会の充実 芸術文化活動の充実と新たな地域文化の創造	予算科目	10: 教育費 4: 社会教育費 3: 芸術文化振興費

2. 事業の概要

事業目的	市民の芸術文化に対する資質向上と、芸術文化に携わる取り組みの推進
事業内容	多くの市民が優れた芸術文化に触れるための自主事業の実施と、芸術文化団体の活動に対する支援

3. 予算額・決算額

(単位:千円 千円未満切上げ)

R2	当初予算額	16,607	補正額等	0	合計	16,607	決算額	592
R3	当初予算額	15,831	補正額等	0	合計	15,831	決算額	12,445

4. 事業の実施状況

(1) 市民文化会館自主事業
① さがえ 慈恩寺ふるさとコンサート「渡辺貞夫カルテット2021」/令和3年11月23日(火・祝) 入場者438名 [参考:令和2年度の慈恩寺コンサートは中止]
② 幼児演劇教室/中止 [参考:令和2年度も中止]
③ クラシックコンサート「高嶋ちさ子 with Super Cellists」/令和3年11月16日(火) 入場者439名 [参考:令和2年度は実施なし]
④ 文化公演「寒河江寄席『春風亭昇太・林家たい平』二人会」/令和3年9月25日(土) 入場者421名 [参考:令和2年度は中止]
(2) 実行委員会、市民文化団体への支援
① 県美展寒河江移動展(県美展寒河江移動展実行委員会主催)/令和3年10月13日(水)～18日(月) 入場者903名 [参考:令和2年度は中止]
② 第53回寒河江市総合文化祭(市芸術文化協議会主催)/展示部門も含めて全面中止 [参考:令和2年10月27日(火)～11月3日(火)展示部門のみ実施 入場者364名]
③ 第24回寒河江市音楽祭「春を呼ぶコンサート」/中止 [参考:第22回及び第23回の寒河江市音楽祭「春を呼ぶコンサート」も中止]
(3) 山形交響楽団に対する支援(県内他自治体とともに山形交響楽協会へ負担金を交付して活動を支援)
(4) 舞台づくり支援事業(舞台発表のレベル向上及び独創的かつ継続的な公演活動を支援)
① 演奏力等向上支援事業 3回 [参考:令和2年度は0回]
② 発表会活動支援事業 2回 [参考:令和2年度 高校1回 社会教育関係団体1回]

5. 事業の効果及び評価

(1) 自主事業においては、令和3年度もコロナ禍が続く状況の中で、幼児演劇教室は中止となったが、出来るものは内容を工夫して実施した。特にメインとなる三つの自主事業公演は、座席数を半減としたり、入場者を確認するなど感染対策を徹底して実施した。来場者からは、しばらくぶりに舞台公演を鑑賞したことに対する喜びの声が聞かれ、広く市民の芸術文化の振興を図ることが出来た。
(2) 各種団体主催の事業については、市総合文化祭及び市音楽祭については中止となったが、県美展寒河江移動展については、文化センターがワクチン接種会場となったため、初めて柴橋地区コミュニティセンターに会場を移して実施し、小学校・保育所が近い立地条件もあり、例年を300人ほど上回る入場者増の効果があった。

6. 今後の対応等

方向性	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 見直し <input type="checkbox"/> 休廃止
今後の対応	(1) 引き続き、コロナ禍の中ではあるものの、令和3年度に実施したノウハウを生かし、すべての事業が再開できるよう更に努力していく。 (2) 各種芸術団体の活動も停滞している中で、「市総合文化祭」や「市音楽祭」等の各芸術文化団体が主催者として実施する事業の再開や、高校・社会教育関係団体の活動の支援についても、引き続き取り組んでいく。 (3) これまでの来場者のアンケート等による意見を生かし、より市民の要望に添った文化的レベルの高い自主事業を開催していく。

事務事業点検・評価調書

1. 事業名等

事業名	美術館運営事業	所管課・係	生涯学習課 文化センター事業管理係
施策体系	【基本方針1】 豊かな心と健やかな体を育む 5 芸術文化に親しみ、創造の喜びを育む取組の推進 芸術文化に触れる機会の充実	予算科目	10 教育費 4 社会教育費 3 芸術文化振興費

2. 事業の概要

事業目的	優れた美術作品の鑑賞機会を提供し、市美術館をとおして中心市街地の活性化を図るとともに、市民の芸術文化に対する関心と豊かな心を養い、寒河江のまちの品格を高める。
事業内容	(1)常設展示のほか、「市民ギャラリー」で特別企画展や企画展を行い、ワークショップなどの体験企画も実施する。 (2)親しまれる美術館を目指して、施設整備を図る。

3. 予算額・決算額

(単位:千円 千円未満切上げ)

R2	当初予算額	6,860	補正額等	0	合計	6,860	決算額	4,644
R3	当初予算額	7,054	補正額等	0	合計	7,054	決算額	6,050

4. 事業の実施状況

(1) 特別企画展として、社会福祉施設関係者等が実行委員会を組織し「アートツリーやまがたvol.10」を実施した。
期間等/令和4年2月5日(土)~2月28日(月) 入場者517名 [参考:令和3年2月6日(土)~3月1日(月) 入場者642名]
内容/社会福祉施設利用者や若手作家の作品展示(新型コロナウイルス感染防止のためワークショップ等は中止)

(2) 次の企画展等展示を実施し、芸術作品に触れる機会を提供した。
① 企画展・若手作家「逸見有展」/令和3年6月15日(火)~7月4日(日) 来場者358名
② 企画展・若手作家「音海はる展」/令和3年7月10日(土)~25日(日) 来場者4,113名
③ 企画展・「鬼海弘雄写真展『INDIA』」/令和3年8月7日(土)~9月20日(月) 来場者1,303名
④ 埋蔵文化フェア/令和3年9月22日(水)~10月4日(月) 来場者670名
⑤ 國井経崇展/令和3年11月5日(金)~16日(火) 来場者515名
⑥ 各地区公民館写真展・慈恩寺絵画コンクール/令和3年12月16日(木)~令和4年1月11日(火) 来場者488名
[参考:令和2年度企画展等展示内容/①若手作家「いぬまるぜの展」 来場者702名、②埋蔵文化財フェア 来場者271名、
③慈恩寺絵画コンクール 来場者210名、④市総合文化祭(作品展示) 来場者132名、
⑤市美術館所蔵作品展<秋> 来場者131名、⑥市美術館所蔵作品展<冬> 来場者334名]

5. 事業の効果及び評価

(1) 来館者に対し、コロナ禍により一時閉館や利用制限を余儀なくされたものの、各種対策への協力依頼を徹底して、各展示を実施した。

(2) 「アートツリーやまがたvol.10」では、今年度も障がいのある人・ない人の作品を分け隔てなく展示し、ユニークで独創的な作品を通して、来場者との交流も生まれた。

(3) 特に企画展の若手作家「音海はる展」及び「鬼海弘雄写真展『INDIA』」においては、予想を上回る来場者に恵まれ、令和3年度の年間の来場者が9,239人で、令和2年度より5,438人の大幅増加の結果に結びついた。

6. 今後の対応等

方向性	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 見直し <input type="checkbox"/> 休廃止
今後の対応	(1) 美術館運営委員会や来館者の意見を反映しながら、引き続き地元の優れた美術作家の作品や、県内在住の若手作家の展示により、地域の美術振興を推進していく。 (2) 実行委員会を組織して実施する特別企画展を継続し、各団体の交流を促進することにより、情報発信の場となる展示会の開催を目指す。 (3) 市民ギャラリーの設備の充実を図るため、スポット照明や展示用備品の整備を図っていく。

事務事業点検・評価調書

1. 事業名等

事業名	教育研究推進事業・学力向上推進事業	所管課・係	学校教育課 指導推進室 指導係
施策体系 教育振興計 計画	【基本方針2】 学ぶ力を身につけ、未来を切り拓く資質や能力を育む 1 学ぶ力の充実と確かな学力の育成 学ぶ力を高める教育の推進 主体的な活動ができる力の育成	予算科目	10 教育費 1 教育総務費 3 教育指導援助費 4 教育研究所費

2. 事業の概要

事業目的	教職員の資質を向上させるとともに、児童生徒の学力の状況を把握し、学力の向上を図る。
事業内容	(1)教育研究所を設置し、各研究部、研修部等における教職員の主体的な研修活動を行う。 (2)学力検査や知能検査、学級集団状態調査を実施し、結果の分析を行うとともに、これに基づく学力向上対策や授業改善を実践する。

3. 予算額・決算額

(単位:千円 千円未満切上げ)

R2	当初予算額	8,335	補正額等	0	合計	8,335	決算額	7,846
R3	当初予算額	8,502	補正額等	0	合計	8,502	決算額	8,054

4. 事業の実施状況

<p>(1) 学力検査・知能検査・学級集団実態調査</p> <p>①小2～中3における数研式NRT学力検査の実施(国語及び算数・数学:全学年、理科:小4以上、社会:小6以上、英語:小6以上)</p> <p>②小2、4、6、中1における知能検査の実施</p> <p>③中1～中3における学級集団実態調査の実施(年1回)</p> <p>④小4、中1における全国学力調査業者テスト(標準学力調査)の実施(国語、算数・数学)</p> <p>(2) 教育研究所</p> <p>①研修部 21部会(陵東・陵南学区各7部会、陵西学区3部会、養護教諭部会、学校事務部会、学校栄養職員部会)各2回</p> <p>②学力向上対策委員会</p> <p>○学力対策委員会の開催(9月・1月) ○市内各小・中学校の学力向上に向けたアクションプランの作成と情報共有</p> <p>○アクションプランの振り返り、資質・能力の育成を目指したアクションプランの説明(村山教育事務所:菅谷内・高取指導主事)</p> <p>③公開授業研究会</p> <p>○中学校区ごと1校ずつ公開を行った。(寒河江小、陵南中、陵西中)</p>
--

5. 事業の効果及び評価

<p>各種学力検査委の結果</p> <p>(1)数研式NRT 小学校全体偏差値 52.3(R2:51.4) 中学校全体偏差値 52.3(R2:50.8)</p> <p>(2)全国学力調査業者テスト 小4平均正答率 国語 75.1(全国69.3) 算数 72.9(全国70.9)</p> <p>中1平均正答率 国語 78.8(全国71.4) 数学 72.7(全国68.2)</p>

6. 今後の対応等

方向性	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 見直し <input type="checkbox"/> 休廃止
今後の対応	令和4年度は、リーディング・スキルテストを実施し、児童生徒の読解力の向上と教師の指導力の向上を図る(テストの実施、教育研究所全体講演会、課題別研究部会)

事務事業点検・評価調書

1. 事業名等

事業名	学力向上支援員配置事業	所管課・係	学校教育課 指導推進室 指導係
施策体系 教育振興計	【基本方針2】 学ぶ力を身に付け、未来を切り拓く資質や能力を育む 1 学びの充実と確かな学力の育成 学ぶ力を高める教育の推進 2 特別支援教育や教育相談機能の充実と推進 特別支援教育の充実	予算科目	10 教育費 1 教育総務費 3 教育指導援助費

2. 事業の概要

事業目的	個に応じたきめ細やかな学習支援を行い、児童生徒に確かな学力を身につけさせるために、学校の状況に応じて学力向上支援員・特別支援教育補助員を配置し活用する。
事業内容	小中学校への学力向上支援員・特別支援教育補助員の配置・学力並びに自尊感情の向上に向けた学習・生活上の支援を行う。

3. 予算額・決算額

(単位:千円 千円未満切上げ)

R2	当初予算額	40,572	補正額等	0	合計	40,572	決算額	33,160
R3	当初予算額	39,915	補正額等	0	合計	39,915	決算額	37,330

4. 事業の実施状況

(1) 配置校	①学力向上支援員 寒河江小(3名)、寒河江中部小(3名)、南部小(2名)、西根小(1名)、柴橋小(1名)、高松小(1名)、醍醐小(1名)、白岩小(1名)、三泉小(1名)、陵東中(2名)、陵南中(2名)、陵西中(1名) 計 12校(19名) ②特別支援教育補助員 寒河江小(1名)、寒河江中部小(1名)、南部小(1名)、柴橋小(1名)、白岩小(1名)、三泉小(1名)、陵南中(2名) 計 6校(8名)
(2) 勤務体制	年間210日程度(授業日)、学校の実情等に応じて4~6時間の勤務

5. 事業の効果及び評価

小中学校6校に特別支援教育補助員を配置することで、通常学級において特に個別の支援が必要な児童生徒や特別支援学級に在籍する児童生徒に対する学習・生活上の支援を行うことができた。

6. 今後の対応等

方向性	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 見直し <input type="checkbox"/> 休廃止
今後の対応	令和4年度は、学力向上支援員配置事業、英語力育成事業、読書の盛んな学校づくり支援事業を統合して、学力向上推進事業を展開する。

事務事業点検・評価調書

1. 事業名等

事業名	スクールバス運行事業	所管課・係	学校教育課 学事係
施策体系 教育振興計	【基本方針2】 学ぶ力を身につけ、未来を切り拓く資質や能力を育む 1 学びの充実と確かな学力の育成 多様な学習環境づくり	予算科目	10: 教育費 1: 教育総務費 3: 教育指導援助費

2. 事業の概要

事業目的	遠距離通学をしている幸生・田代地区の児童生徒の就学機会を確保する。
事業内容	スクールバスの運行業務を市内タクシー会社に委託し、幸生・田代地区の児童生徒の登下校時の送迎を行う。 また、しらいわ保育所に通所する幸生・田代地区の児童の送迎を行うとともに、小中学校の校外学習活動及び陵西中学校の部活動の交通手段にも活用する。

3. 予算額・決算額

(単位:千円 千円未満切上げ)

R2	当初予算額	8,159	補正額等	0	合計	8,159	決算額	6,474
R3	当初予算額	8,142	補正額等	0	合計	8,142	決算額	7,744

4. 事業の実施状況

(1) 利用者	陵西中学校 12名 (幸生地区7名・田代地区5名) ※R2 12名 (幸生地区8名・田代地区4名) 白岩小学校 11名 (幸生地区10名・田代地区1名) ※R2 2名 (田代地区2名) しらいわ保育所 1名 (幸生地区1名) ※R2 5名 (幸生地区5名)
(2) 運行状況	陵西中学校・白岩小学校及びしらいわ保育所への送迎 (延べ423日) ※R2 (延べ420日) 自然の家での体験学習や公共施設の見学学習など校外活動等の利用 (延べ98日) ※R2 (延べ91日) 陵西中学校の部活動等での利用 (延べ7日) ※R2 (延べ8日)

5. 事業の効果及び評価

<p>小中学校への送迎や校外活動のほか、令和3年度の白岩小学校と幸生小学校の統合に向けて行われた交流学習の移動手段としてスクールバスを活用した。 バス運行業務委託業者との連絡を遅滞なく行い、スムーズなスクールバス利用が行われた。 令和3年度より、旧幸生小児童の白岩小への登下校利用を開始。</p>
--

6. 今後の対応等

方向性	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 見直し <input type="checkbox"/> 休廃止
今後の対応	各小中学校からの利用の要望に可能な限り対応するとともに、事故のないよう運行業務委託業者に指導を行う。

事務事業点検・評価調書

1. 事業名等

事業名	教育相談事業	所管課・係	学校教育課 指導推進室 指導係
施策体系 教育振興計画	【基本方針2】 学ぶ力を身につけ、未来を切り拓く資質や能力を育む 2 特別支援教育や教育相談機能の充実と推進 教育相談機能の充実	予算科目	10 教育費 1 教育総務費 3 教育指導援助費

2. 事業の概要

事業目的	不登校をはじめとする、学校や保護者からの教育相談に対応するとともに、不登校児童生徒の学校への復帰を図る。
事業内容	(1)教育相談室に教育相談員を配置し、学校教育や家庭生活全般にわたる相談に対応するとともに、不登校の原因把握に努める。 (2)不登校児童生徒の学校復帰のための適応指導教室「寒陵スクール」を開設する。

3. 予算額・決算額

(単位:千円 千円未満切上げ)

R2	当初予算額	5,157	補正額等	0	合計	5,157	決算額	4,369
R3	当初予算額	7,659	補正額等	0	合計	7,659	決算額	5,416

4. 事業の実施状況

(1)教育相談室の概要 ①相談員の配置：教育相談員5名(うち、訪問相談員2名) ②相談の件数：○学校 来室相談 40件、電話相談 148件、学校訪問 133件(延べ) ○保護者 来室相談 85件、電話相談 160件、家庭訪問 119件
(2)寒陵スクールの概要(教育相談員が運営) ①在籍児童生徒：計12名(小学生3名、中学生9名) ②開設日数：208日(勤労青少年ホーム：191日 フローラSAGAE:8日、市立図書館：9日) ③その他：長期休業中の学習、体験活動(遠足・調理実習・クリスマスリース作り)、個人面談、保護者懇談会を実施

5. 事業の効果及び評価

(1)令和3年度の不登校による年間30日以上欠席者 小学生19名(前年度11名)、中学生50名(前年度36名)
(2)寒陵スクール在籍児童生徒進路状況 中3(5名)の内、1名は私立高校、3名は霞城学園に進学した。1名は特別支援学校。
(3)寒陵スクール・訪問相談では、心に寄り添った相談を通して、本人や保護者の心の安定を図ることができた。学校・保護者・相談員が情報を共有することで、児童の学校出席につながっていくケースもみられた。

6. 今後の対応等

方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 見直し <input type="checkbox"/> 休廃止
今後の対応	(1)不登校予防の観点から、FR教育臨床研究所所長の花輪敏男氏を講師に、小学校低学年担任を対象に不登校予防研修会を年6回シリーズで実施する。 (2)寒陵スクールが、保護者や児童生徒の心の拠り所となるよう、個々の悩みに寄り添っていく。その中で、学校への登校を促すことや、寒陵スクールで自分の生き方を見つめ直すなど、自立を促す取り組みをさらに進めていく。 (3)登校できない児童生徒に対して、訪問支援を拡充できるように調整をしていく。 (R4年度予算 8,245千円)

事務事業点検・評価調書

1. 事業名等

事業名	障害児通学支援事業	所管課・係	学校教育課 学事係
施策体系 教育振興計 画	【基本方針2】 学ぶ力を身につけ、未来を切り拓く資質や能力を育む 2 特別支援教育や教育相談機能の充実と推進 特別支援教育の充実	予算科目	10 教育費 1 教育総務費 3 教育指導援助費

2. 事業の概要

事業目的	障がいにより自力通学が困難で、かつ保護者による送迎も困難な児童生徒の学習参加の利便向上と保護者の負担軽減を図る。
事業内容	登校時または下校時のタクシー送迎を市内タクシー会社に委託し、通学支援を行う。

3. 予算額・決算額

(単位:千円 千円未満切上げ)

R2	当初予算額	2,085	補正額等	0	合計	2,085	決算額	960
R3	当初予算額	1,926	補正額等	0	合計	1,926	決算額	1,321

4. 事業の実施状況

(1) 実施	登校時または下校時のタクシー送迎による通学支援
(2) 利用状況	小学校: 6校、7名、延べ 831回 (R2 5校、7名、延べ 548回) 中学校: 3校、4名、延べ 479回 (R2 2校、7名、延べ 493回) 合計: 9校、11名、延べ 1310回 (R2 7校、14名、延べ 1041回)

5. 事業の効果及び評価

<p>家庭、学校及びタクシー会社が連携し、個々に応じた支援体制を整えたことで、障がいのある児童生徒の就学の適正化が図られ、保護者の負担軽減に繋がっている。また利用の開始時には、保護者と十分な打ち合わせを行い、児童生徒が安心して利用できる環境づくりに努めた。</p>
--

6. 今後の対応等

方向性	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 見直し <input type="checkbox"/> 休廃止
今後の対応	引き続き、登下校往復での支援が出来る予算を要求していく。

事務事業点検・評価調書

1. 事業名等

事業名	小中学校ICT活用支援事業	所管課・係	学校教育課 学事係
施策体系 (教育振興計画)	【基本方針2】 学ぶ力を身に付け、未来を切り拓く資質や能力を育む 3 これからの時代を見据えた「教育の情報化」の推進 情報活用能力の育成 ICTを活用した教育の推進	予算科目	10 教育費 1 教育総務費 3 教育指導援助費

2. 事業の概要

事業目的	ICTの積極的な活用を促し、効果的活用ができる学習環境づくりを支援する。また、子どもたちがICTを正しく活用できる力を養えるよう支援する。
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・校務支援システムの運用 ・GIGAスクールタブレット支援員による各学校での教職員への支援事業 ・ICT機器の購入及び保守点検 ・GIGAスクールタブレットを活用し、ICT教育の充実を図った。 ・さくら連絡網(デジタル配信)を整備した。

3. 予算額・決算額

(単位:千円 千円未満切上げ)

R2	当初予算額	14,132	補正額等	337,192	合計	351,324	決算額	285,192
R3	当初予算額	26,323	補正額等	0	合計	26,323	決算額	25,934

4. 事業の実施状況

<ul style="list-style-type: none"> ・各学校におけるICT関連機器の不具合等に迅速に対応するため、保守点検の委託業務を実施。 ・教職員のGIGAスクールタブレット活用支援のため外部委託でサポート窓口を設置し、支援員を各学校に派遣し教職員への支援事業を行った。 ・校務支援システムを全小中学校に導入した。 ・電子黒板を中学校に設置した。 ・GIGAスクールタブレットの不具合や修理・保険対応のサポート窓口を設置した。

5. 事業の効果及び評価

<ul style="list-style-type: none"> ・GIGAスクールタブレット支援員による各学校での教職員支援事業を行い、ICT教育の充実を図った。 ・GIGAスクールタブレットによる、双方向型授業及びミライシードASP版の活用を可能とした。 ・電子黒板の導入により、授業等での使用がより容易になった。 ・さくら連絡網を活用し、各種お便り、緊急連絡、出席確認、検温等、学校と保護者間での連絡が容易になった。

6. 今後の対応等

方向性	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 見直し <input type="checkbox"/> 休廃止
今後の対応	全児童生徒へのタブレットが導入され、授業での使用はもちろん、家庭学習や、一部小学校ではオンラインによる「家庭訪問」としての使用がなされる。「学校だより」等の配布物も、さくら連絡網を活用してデータ配信しているが、さらに活用を図っていく。

事務事業点検・評価調書

1. 事業名等

事業名	ICT整備推進事業	所管課・係	学校教育課 学事係
施策体系	【基本方針2】 学ぶ力を身につけ、未来を切り拓く資質や能力を育む 3 これからの時代を見据えた「教育の情報化」の推進 情報活用能力の育成 ICTを活用した教育の推進	予算科目	10 教育費 2,3 小学校費、中学校費 3 教育振興費

2. 事業の概要

事業目的	ICTの積極的な活用を促し、効果的活用ができる学習環境づくりを支援する。小中学校における情報教育を円滑に行えるよう、パソコン機器や電子黒板等の整備充実を図る。
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の授業用パソコンの整備。 ・授業等で使用する電子黒板の整備。 ・校務用(職員室等)パソコンの整備。

3. 予算額・決算額

(小学校費)

(単位:千円 千円未満切上げ)

R2	当初予算額	40,370	補正額等	0	合計	40,370	決算額	39,884
R3	当初予算額	32,881	補正額等	0	合計	32,881	決算額	32,713

(中学校費)

R2	当初予算額	18,216	補正額等	46	合計	18,262	決算額	12,737
R3	当初予算額	12,878	補正額等	0	合計	12,878	決算額	12,606

4. 事業の実施状況

<p>小学校パソコン機器等(リースにて整備)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○パソコン 児童用デスクトップPC195台、児童用ノートPC58台、教師用デスクトップPC21台、電子黒板用PC25台、校務用PC180台 ○プリンター A3モノカラー16台、A3カラーレーザー10台、A4モノカラー10台、A4カラーレーザー6台、A3カラーインクジェット複合機3台、A3カラーインクジェット3台 ○電子黒板等 電子黒板25台、プロジェクター10台 ○その他 ルータ、ファイアーウォール、スイッチ等 <p>中学校パソコン機器等(リースにて整備)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○パソコン 生徒用デスクトップPC60台、生徒用ノートPC50台、教師用デスクトップPC6台、電子黒板用PC15台、校務用PC100台 ○プリンター A3モノカラー3台、A3カラーレーザー複合機3台、A3カラーレーザー5台、A4モノカラー10台、A3カラーインクジェット複合機2台、A3カラーインクジェット3台 ○電子黒板等 電子黒板15台、プロジェクター3台 ○その他 ルータ、ファイアーウォール、スイッチ等

5. 事業の効果及び評価

<ul style="list-style-type: none"> ・パソコン機器等は、基本的に5年間のリース契約にて整備、更新している。 ・全児童へタブレットが配布され、さらに効果的な活用ができるよう、普通教室配置の電子黒板を増設した。(R3 10台)→R5まで全普通教室への設置完了予定。

6. 今後の対応等

方向性	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 見直し <input type="checkbox"/> 休廃止
今後の対応	授業及び家庭学習において1人1台タブレットパソコンを活用していく。あわせて、パソコン教室等設置の児童生徒用パソコンは、リース満了分から撤去していく。

事務事業点検・評価調書

1. 事業名等

事業名	英語力育成事業	所管課・係	学校教育課 指導推進室 指導係
施策体系 教育振興 計画	【基本方針2】 学ぶ力を身に付け、未来を切り拓く資質や能力を育む 4 グローバル化に対応した教育の推進 外国語(英語)学習や国際理解教育の推進	予算科目	10 教育費 1 教育総務費 3 教育指導援助費

2. 事業の概要

事業目的	各中学校区へのALTの配置や各小学校へのAETの派遣等を行い、市内小学校の外国語活動や中学校の外国語の学習を充実させるとともに、小中連携による系統的な学習を推進し、児童生徒に英語力を身に付けさせる。
事業内容	(1) ALT(3名)、AET(3名)を市内12小中学校に派遣し、小学校の外国語活動や中学校の外国語学習の支援を行う。 (2) 1日英語だけで過ごす「English Day」事業を実施する。 (3) 英語力の実態把握: 中学校第2学年におけるGTEC(英語4技能試験)の実施

3. 予算額・決算額

(単位:千円 千円未満切上げ)

R2	当初予算額	19,518	補正額等	0	合計	19,518	決算額	18,855
R3	当初予算額	28,200	補正額等	0	合計	28,200	決算額	20,480

4. 事業の実施状況

<p>(1) ALT3名を市内12の小中学校に学期ごと計画を立てて派遣し、小学校の外国語活動・中学校の英語学習への支援を行った。 (2) 1日英語だけで過ごす「English Day」事業……8月4日、幸生小を会場に実施。 (3) 中学生の英語力を把握するために、中学校第2学年におけるGTEC(英語4技能試験)を10月に実施した。 事前事後の研修会のため、英語教育推進会議(6・2月)を開催した。</p>

5. 事業の効果及び評価

<p>(1) English Dayに、小中学生61名が参加(R2:中止、R1:26名、H30:25名、H29:15名)、ALT(3名)・AET(3名)・教員5名)・高校生ボランティア(1名)と、様々な英語の活動に取り組んだ。 (2) GTECの結果 令和2年度のGTEC分析会、令和3年度のGTEC事前研修において、各中学校の担当教師間で課題(LISTENINGとSPEAKING)と課題を克服するための対策について共有し授業改善に取り組んだことにより、TOTALスコアのCEFR-J LevelがA1.1からA1.2に向上した。</p>
--

6. 今後の対応等

方向性	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 見直し <input type="checkbox"/> 休廃止
今後の対応	令和4年度は、学力向上支援員配置事業、英語力育成事業、読書の盛んな学校づくり支援事業を統合して、学力向上推進事業を展開する。

※ ALT=外国語指導助手(外国人) AET=外国語指導支援員(日本人)

事務事業点検・評価調書

1. 事業名等

事業名	さがえっこライフデザインセミナー事業	所管課・係	学校教育課 指導推進室
施策体系 (教育振興計画)	【基本方針2】 学ぶ力を身に付け、未来を切り拓く資質や能力を育む 6 キャリア教育の推進 社会的・職業的自立に向けた教育の推進	予算科目	款 10 教育費 項 1 教育総務費 目 3 教育指導援助費

2. 事業の概要

事業目的	未来の寒河江を担う「さがえっこ(小中学生)」に、市内外各界で活躍している方の講話等を通して、将来の人生設計について働きかける。結婚や子どもを産み育てる大切さ等についても題材とし、結婚や人口減少対策が家庭でも話題となるよう保護者の参加も促し、意識啓発を図る。
事業内容	(1) 市内各小中学校で選定した講師による、「ライフデザイン」に関する講話・体験等の実施

3. 予算額・決算額

(単位:千円 千円未満切上げ)

R2	当初予算額	1,000	補正額等	0	合計	1,000	決算額	618
R3	当初予算額	1,000	補正額等	0	合計	1,000	決算額	686

4. 事業の実施状況

<p>市内各小中学校における講話・体験等の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 市内すべての小中学校で、46回にわたって「ライフデザインセミナー」を実施した。 (小学校:32回、中学校:14回) 実施内容 地域や日本・世界で活躍する方による講話、地域で活躍する企業の方による講話、地域貢献に関する講話、福祉・ボランティアに関する講話、命や誕生に関する講話、ライフデザインや生き方に関する講話、郷土のよさや歴史に関する講話、職業に関する講話・体験等
--

5. 事業の効果及び評価

<p>(1) 市内すべての学校で「ライフデザイン」に関する講話・体験を実施した。地域で活躍する方々の講話や職業・命・誕生・ライフデザインに関する講話等を通して、児童生徒に地域のよさや自分の生き方などにも意識を向けさせたり、これからの生き方を深く考えさせたりすることができた。</p> <p>(2) コロナ禍での事業実施となり、広く市民を対象とした講演等は実施しなかったが、各学校での「ライフデザインセミナー」については、実施した回数は昨年度よりも8回多く、講師の数も24人増えて101人を数えるなど、より充実した活動が展開できた。</p> <p>(3) PTAの学年行事として実施し、親子で職業について学ぶ場を設けたり、市内の企業と連携して探究的な学習を推進したりするなど、地元の企業と連携した新たな形での「ライフデザインセミナー」を行う学校も見られた。</p>

6. 今後の対応等

方向性	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 見直し <input type="checkbox"/> 休廃止
今後の対応	令和4年度は、さがえっこ育み推進事業・特色ある学校づくり支援事業・さがえっこライフデザインセミナー事業を統合して、コミュニティ・スクール推進事業を展開する。キャリア教育については、さがえ未来コンソーシアム事務局が、学校と企業の連携を橋渡しする。

事務事業点検・評価調書

1. 事業名等

事業名	寒河江さくらんぼ大学推進事業	所管課・係	生涯学習課 中央公民館
施策体系	【基本方針3】 生涯にわたって、生き生きと学び続ける取組みを推進する	予算科目	10 教育費 4 社会教育費 4 公民館費
教育振興計画	1 自らを高める生涯学習の充実と環境づくりの推進 生涯を通じた学習機会の充実 共に学び合う体制づくり		

2. 事業の概要

事業目的	生涯学習及び交流の場として、中央・地区公民館をつないだ誰もが自己実現のため生き活きと学び、学びを通じた触れ合いで人と人がつながり、学びの成果が地域で輝き、まちを育てるための「市民大学」を開設する。
事業内容	(1)中央公民館と4つの地区公民館をキャンパスとした講座を実施する。 (2)ニーズに合った講座内容を選定し、著名人や地域で活躍する方などを講師として幅広く選定する。 (3)講座の実施に当たっては、受講生による運営委員が主となり自主的な運営を進めていく。

3. 予算額・決算額

(単位:千円 千円未満切上げ)

R2	当初予算額	2,702	補正額等	0	合計	2,702	決算額	0
R3	当初予算額	2,802	補正額等	0	合計	2,802	決算額	260

4. 事業の実施状況

<p>従来、中央公民館と4地区公民館をキャンパスに見立て、5キャンパス、6学部1大学院で講座を実施していたが、コロナ禍のため、二学部のみで各二回講座として大幅縮小して開催した。 [令和2年度は全面中止]</p> <p>◎ 令和3年度の実施内容 大学院「慈恩寺の歴史専攻科」：①8月1日(日)古建築の基本を学びながら慈恩寺のお堂の理解を深める ②9月11日(土)慈恩寺の注目したい建築 受講生20名(定員満了) 歴史学部～大江公の歴史～：①10月16日(土)大江公の歴史1 ②11月13日(土)大江公の歴史2 受講生20名(定員満了) ※開講式や、選べる教室・キャンパスカフェ等は行わず、座学聴講形式の二学部を実施。</p>

5. 事業の効果及び評価

<p>令和2年度は全面中止となったため、開催規模・受講者数・感染対策等できる範囲での開催を考え、何とか二学部体制で実施した結果、参加者からも「感染対策が執られ安心して受講できた」との声や、講師からも継続したことに意義があったとの評価が得られた。 また、大学院では、慈恩寺の建築に関する内容を取り上げたことから、これまで見られなかった建築関係の方の受講もあった。</p>
--

6. 今後の対応等

方向性	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 見直し <input type="checkbox"/> 休廃止
今後の対応	<p>(1) コロナ禍の収束状況をにらみながら、令和4年度はさらに講座内容や感染予防対策を検討しながら、全学部の開催復活を目指す。</p> <p>(2) 慈恩寺について高度に専門的に学ぶ「大学院」を継続するとともに、環境問題や持続可能な社会づくりなどの時代の要請に応えた学部も設ける。</p> <p>(3) 「自分たちがつくる講座」を目指し、運営委員会を中心とした自主的運営の推進を再開し、若者から高齢者まで幅広い年齢層を対象とした魅力ある講座の実施により、仲間づくりの輪を広げる。</p> <p>(4) 特に令和3年度の「歴史学部～大江公の歴史～」では、大河ドラマ「鎌倉殿の13人」の影響もあって、申込者が多くなり受講できない方が大勢出たことから、もう一度受講できよう令和4年度も同様の内容の講座を設けて、現地研修も取り入れながら受講者の要望に応じていく。</p>

事務事業点検・評価調書

1. 事業名等

事業名	生涯スポーツ振興事業	所管課・係	スポーツ振興課 スポーツ振興係
施策体系	【基本方針3】 生涯にわたって、生き生きと学び続ける取組みを推進する	予算科目	10 教育費
教育振興計画	2 生涯にわたってスポーツに親しむ取組みの推進		5 保健体育費
	誰もが気軽に楽しめるスポーツ活動の推進 競技力向上の推進 スポーツを通じた地域活性化の推進		1 保健体育総務費

2. 事業の概要

事業目的	市民一人ひとりが、いつでもスポーツに親しむことができる社会環境の実現を目指す。
事業内容	(1)指定管理者やスポーツ団体等と連携し、更に支援を行いながら、年間を通じた体育施設の利用促進による多様なスポーツの振興を図る。 (2)ライフステージやニーズに応じた生涯スポーツの振興を図るため、各種大会・教室等を開催及び支援する。

3. 予算額・決算額

(単位:千円 千円未満切上げ)

R2	当初予算額	8,602	補正額等	0	合計	8,602	決算額	7,018
R3	当初予算額	8,795	補正額等	0	合計	8,795	決算額	7,559

※3月に649千円を一般会計に戻入

4. 事業の実施状況

市スポーツ推進委員との連携、(一社)市スポーツ協会への事業委託等により、多彩なスポーツ教室や講座等を開催し、多くの市民にスポーツに親しむ機会を提供することを目指したが、前年に引き続き、コロナ禍のため多くの事業や活動等の制限を余儀なくされた。また、市スポーツ協会共催大会の半分以上が中止になるなど、各種大会の開催や競技力向上に係る支援等についても、限定的なものとなった。

(1) 生涯スポーツ推進事業

- ①市スポーツレクリエーション祭 ※一部縮小分散開催(294名)(R2: 390名/ R1: 586名/ H30: 471名/ H29: 508名)
- ②市民スキー教室 ※一部縮小開催(35名)(R2:事業中止/ R1: 114名/ H30: 87名/ H29: 97名)
- ③ちびっこスポーツ教室 (18回,367名) (R2: 20回,534名/ R1: 20回,503名/ H30: 20回,477名/ H29: 10回,265名)
- ④ジュニアスポーツ教室 (24回,474名) (R2: 20回,597名/ H31: 20回,366名/ H30: 20回,379名/ H29: 10回,223名)
- ⑤成人スポーツ講座(ゴルフ教室)(20回,404名) (R2: 20回,289名/ R1: 20回,353名) ※別メニュー (H30:8回,42名/ H29:8回,65名)
- (2)ニュースポーツ出前事業 (6回,3種目,195名)(R2: 2回,3種,39名/ R1: 6回,7種,390名/ H30: 5回,5種,347名/ H29: 6回,6種,378名)
- (3)スポーツ少年団育成事業(指導者,育成母集団研修会)※事業中止 (R2: 事業中止/ R1: 1回,69名/ H30: 50名/ H29: 70名)
- (4)市スポーツ(体育)協会育成事業 (表彰,激励事業※授与式及び講演会(中止)、モンテディオ支援事業、スポ少活動支援事業他)
- (5)※さくらんぼマラソン大会事業 →H31～地域スポーツ活性化推進事業に整理し掲載

5. 事業の効果および評価

- (1)生涯スポーツ推進事業等については(一社)市スポーツ協会が担い、ニュースポーツ出前教室等については市スポーツ推進委員会が主に担当し、各々の持ち味を活かした取組としてコロナ禍による制限等を受けながらも継続実施した。効果検証については、参加数等をコロナ禍前後で単純比較はできないが、感染対策を踏まえた事業設計等の工夫による前年度に中止とした事業の再開や、少人数・分散開催等に対する良好な評価を得ている。
- (2)市民がスポーツに親しむ機会を数多く提供することによる市民の健康づくりやスポーツ人口の拡大を図るとともに、スポーツ大会等の開催を通じた競技力向上と指導者等の育成を図ろうとしたが、大会の中止等も多く様々な制限下での事業展開となった。効果検証について数値化は困難だが、スポーツ関連事業の継続や顕彰による市民の健康づくりや競技スポーツの活性化に繋がっている。

6. 今後の対応等

方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 見直し <input type="checkbox"/> 休廃止
今後の対応	感染症対策等も踏まえ、(一社)寒河江市スポーツ協会ほか関係組織との連携を深め、市民が気軽にスポーツに親しめる事業を中心に、コロナ禍での新しい生活様式や新たなニーズにも対応しながら、市民の健康に繋げる生涯スポーツを推進する。冬期間と障がい者スポーツの振興を中心に拡充していく。(R4予算 9,331千円)

事務事業点検・評価調書

1. 事業名等

事業名	体育施設整備事業	所管課・係	スポーツ振興課 スポーツ振興係
施策体系	【基本方針3】 生涯にわたって、生き生きと学び続ける取組みを推進する	予算科目	10 教育費
教育振興計画	2 生涯にわたってスポーツに親しむ取組みの推進 スポーツ環境の整備と充実	項	5 保健体育費
		目	1 保健体育総務費

2. 事業の概要

事業目的	安全、快適で利用しやすい体育施設の整備を図る。
事業内容	(1)市民体育館等の利用環境を適正に維持するため、施設の改修等を計画的に行う。 (2)日常点検や専門業者の定期保守点検により、施設設備に起因する事故防止及び不具合等の早期発見に繋げる。

3. 予算額・決算額

R2	当初予算額	22,500	補正額等	0	合計	22,500	決算額	21,362
R3	当初予算額	4,521	補正額等	0	合計	4,521	決算額	3,993

4. 事業の実施状況

体育施設整備について、次の整備・修繕等を実施した。(指定管理者が行った修繕等を除く)	
① 50mプール残留塩素濃度管理装置及びろ過装置取替修繕	2,398,000 円
② 体成分分析装置備品整備(インボディ)	1,133,000 円
③ 体育館施設・設備修繕(外部手摺・通路ガラス)	462,000 円
R2 市民体育館ボイラー等更新工事	20,900,000 円
R2 屋内多目的運動場屋根雨漏り修繕	462,000 円
R1 市民プール給水ポンプ緊急取替修繕	1,965,600 円
R1 折畳み式バスケット装置備品整備	2,351,800 円

5. 事業の効果および評価

(1)市民体育館等の適正な管理運営について、施設の修繕や備品整備等を迅速かつ計画的に行ったことが事故等の未然防止に繋がっている。コロナ禍による利用制限等を含め効果の数値化は困難だが、安全・快適に利用されている。
(2)屋内多目的運動場の管理運営について、指定管理者との連絡調整を密に行い優先度の高いものから整備等に対応している。前述の通り(コロナ禍における)数値比較は困難だが、快適な環境の提供が利用者の評価に繋がっている。

6. 今後の対応等

方向性	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 見直し <input type="checkbox"/> 休廃止
今後の対応	体育施設の良好な環境を維持するため、施設の日常管理を適正に行いながら計画的整備を進めていく。 更に、市全体の公共施設の個別施設(維持管理)計画等との整合を図りながら、中小規模整備等についても、独自に計画的かつ効果的な整備に努める。

事務事業点検・評価調書

1. 事業名等

事業名	地域スポーツ活性化推進事業	所管課・係	スポーツ振興課 スポーツ振興係
施策体系	【基本方針3】 生涯にわたって、生き生きと学び続ける取組みを推進する	予算科目	10 教育費
教育振興計画	2 生涯にわたってスポーツに親しむ取組みの推進		5 保健体育費
	誰もが気軽に楽しめるスポーツ活動の推進 競技力向上の推進 スポーツを通じた地域活性化の推進		1 保健体育総務費

2. 事業の概要

事業目的	特色ある施設環境等を生かし、スポーツを通じた交流拡大と地域活性化を図る。
事業内容	(1)スポーツツーリズム事業として、さくらんぼマラソン大会、ツーリズム交流事業等を開催し、交流人口の拡大と地域活性化に繋げる。 (2)スポーツ競技力向上に係る支援事業として、全国大会等出場者への激励事業等を行う。 (3)東京2020を契機とし、市民のスポーツ実施率の向上と障がい者スポーツの振興等に繋げる。(ツーリズム含む)

3. 予算額・決算額

(単位:千円 千円未満切上げ)

R2	当初予算額	39,518	補正額等	△ 18,862	合計	20,656	決算額	10,157
R3	当初予算額	26,708	補正額等	0	合計	26,708	決算額	14,837

※3月に9,338千円を一般会計に戻入

4. 事業の実施状況

<p>オリンピック聖火リレーをはじめ、東京2020(オリ・パラ)を契機とした各種事業を市民のスポーツ実施率の向上等に繋げ、スポーツツーリズム関連の各種大会等の開催による、交流拡大と地域活性化を図ることが本来の事業目的であるが、コロナ禍による中止・縮小や事業組替等を余儀なくされるものが多く、感染対策のもと新しい形態や代替的事业として行った。</p> <p>また、全国大会等出場者への激励事業など、更なる競技力向上と指導者育成に向けた事業を制限を受けながら継続実施した。</p> <p>(1)さくらんぼマラソン大会負担金 8,125千円⇒4,125千円 (R2: 15,000⇒2,000千円/ H31: 12,800千円/H30: 10,000千円) ◎ 参加者(オンライン大会 2,070名)(R2: 大会中止/ H31: 2,819名 /H30: 2,692名 /H29: 2,242名)</p> <p>(2)トライアスロン大会負担金 ※豪雨災害復旧工事のため中止 (R2: 2,000⇒400千円/ H31: 1,500千円 /H30: 1,000千円) ◎ 参加者(大会中止)(R2: 大会中止/ H31: 157名 / H30: 69名)</p> <p>(3)オリ・パラPR(障がい者スポーツ含)ツーリズム交流等事業負担金 (14,473千円⇒8,136千円) (R2: 16,800⇒2,800千円/ H31: 3,000千円 /H30はパラリンピアン交流事業等にて一部実施) (ツーリズム関連: ツールドさくらんぼ、ストライダーエンジョイカップ、スケートボードスクール、BMXスクール 他) (オリ・パラ関連: オリ聖火リレー、パラ聖火採火、 ※中止: オリ、パブリックビューイング、関連スポーツフェスティバル)</p> <p>(4)全国大会等出場激励金 (20件)200千円(※大会中止等に伴う減)(R2: 14件, 140千円/ H31: 53件, 610千円/ H30: 52件, 315千円)</p> <p>(5)スポーツ講演会(スポーツ協会表彰事業関連) ◎ 参加者(事業中止) (R2: 表彰式のみ縮小開催/ H31: 200名/ H30: 120名)</p>

5. 事業の効果および評価

<p>(1)スポーツツーリズムや東京2020関連事業による機運醸成、交流拡大と地域活性化、更に市民のスポーツ実施率の向上を目指したが、コロナ禍により引き続き多くの事業が中止や縮小等を余儀なくされた。その中で、オリンピック聖火リレー・ミニセレブレーション(式典演出等)や、さくらんぼマラソンオンライン大会には初めて全国すべての都道府県からのエントリーがあり、さくらんぼやオリジナルの参加賞、「大江公ゆかりのコースほか」推奨コースの設定等が好評であった。効果検証の数値比較としては、前記4が示す通り総体的にやや上昇と捉えている。</p> <p>(2)競技力向上に関連する取組が、全国大会等の上位大会出場者等の励みとなっており、多彩な競技種目の出場に拡大している。(コロナ禍により交付実績は少ないが前年比はやや増加。)</p> <p>(3)継続的な障がい者スポーツ振興に関連する事業を通じ、障がい者や障がい者スポーツへの理解や交流を図っている。ポッチャ(パラリンピック種目)等の体験教室の出前や仮設コートを設置及び動画による普及を進め、参加者の増加や理解に繋がっている。</p>
--

6. 今後の対応等

方向性	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 見直し <input type="checkbox"/> 休廃止
今後の対応	オリンピック・パラリンピック等は確実にスポーツへの興味関心を高める契機となり、スポーツツーリズムは多様なスポーツへの関わり方「する・みる・支える」により、市民のスポーツ実施率の向上に加え経済への波及など、地域活性化にも繋がる。 これらの機会と施設等の特色を活かし、各種事業の検証を重ね、更に感染症対策ほか新たな観点を加えながら事業内容を高めていく。

事務事業点検・評価調書

1. 事業名等

事業名	市史編纂事業	所管課・係	生涯学習課 歴史文化係
施策体系	【基本方針4】 ふるさとに誇りを持ち、郷土の歴史と文化を大切にすることを養う	予算科目	10 教育費 4 社会教育費 8 市史編纂費
教育振興計画	2 郷土の歴史と文化を大切に活動の推進 ふるさとの歴史の啓発・普及と文化財の保護		

2. 事業の概要

事業目的	歴史資料の収集、調査を行い、市史を発刊し、寒河江市の歴史と文化を後世に伝える。
事業内容	(1) 市史編纂専門員2名の配置 (2) 郷土資料の収集・解説・研究 (3) 市史等の原稿執筆・編集・発刊

3. 予算額・決算額

(単位:千円 千円未満切上げ)

R2	当初予算額	11,441	補正額等	0	合計	11,441	決算額	8,549
R3	当初予算額	6,513	補正額等	0	合計	6,513	決算額	4,802

4. 事業の実施状況

<p>(1) 市史編纂委員会を開催して、市史の編集方針や発刊等について協議した。</p> <p>(2) 寒河江市史編纂叢書第91集「白岩鈴木修家資料」を発刊した。</p> <p>(3) 市史編纂事業の周知と資料収集の広報を兼ねて、毎月、市報5日号「生涯学習のまど」内に「市史編さんだより」を掲載した。</p>
--

5. 事業の効果及び評価

<p>(1) 市史編纂叢書の発刊により、市の歴史を後世に伝える基礎資料の整備が進み、更に、市民の市史に対する関心を高めることができた。</p> <p>(2) 歴史資料の収集や慈恩寺最上院日記等古文書の解説により、市内の歴史・文化資料の適切な保存と活用に資することができた。</p> <p>(3) 「市史編さんだより」の市報掲載や歴史に関する相談に随時対応することにより、ふるさとの歴史の啓発・普及が図られた。</p>
--

6. 今後の対応等

方向性	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 見直し <input type="checkbox"/> 休廃止
今後の対応	<p>(1) 市史編纂委員会において策定した市史編纂事業計画に基づき、発刊作業を進める。令和4年度は、市史要約編を発刊する予定である。</p> <p>(2) 市史編纂事業の実施に当たっては市史編纂専門員体制を維持し、歴史文化活動推進員等の協力を得ながら郷土の歴史資料の収集、並びに散逸・消失を防ぐと共に、調査研究を進め、市民等への市史の普及を図る。</p>

事務事業点検・評価調書

1. 事業名等

事業名	文化財保護庶務事業	生涯学習課	
		歴史文化係	
施策体系	【基本方針4】 ふるさとに誇りを持ち、郷土の歴史と文化を大切にすることを養う 2 郷土の歴史と文化を大切にしている活動の推進 ふるさとの歴史の啓発・普及と文化財の保護 民俗芸能や伝統行事の保護と伝承	予算科目	
教育振興計画		款	10 教育費
		項	4 社会教育費
	目	9 歴史文化費	

2. 事業の概要

事業目的	市内に所在する文化財の保護を図り、寒河江市の歴史と文化を後世に伝える。
事業内容	(1)「文化財保存活用地域計画」作成に向けた内容の検討、並びに歴史文化振興検討委員会の開催 (2) 2022年1月放映のNHK大河ドラマ「鎌倉殿の13人」に関するPR事業

3. 予算額・決算額

(単位:千円 千円未満切上げ)

R2	当初予算額	3,222	補正額等		合計	3,222	決算額	2,270
R3	当初予算額	3,798	補正額等		合計	3,798	決算額	1,627

4. 事業の実施状況

(1) 「文化財保存活用地域計画」の作成に向け、文化庁の担当調査官によるWEBでの指導を受けるとともに、歴史文化振興検討委員会、副市長を会長とする検討会を各2回開催し、内容の検討を行った。 (2) 大江広元公が令和4年度の大河ドラマ「鎌倉殿の13人」で取り上げられたことから、ゆかりの地である本市市民の機運盛り上げを図るため、のぼり旗の作成を行った。また、小中学生に親しみやすいよう昭和63年発行の「大江公物語」を現代風のイラストでリライトし、小中学校へ周知し、市HPへアップした。市内の大江氏ゆかりの地を紹介するマップを作成し、全戸配布及び市のHPへアップした。それに関連し、史跡のパネルを作成しパネル展を行った。

5. 事業の効果及び評価

(1) 「文化財保存活用地域計画」の素案について歴史文化振興検討委員会における有識者、庁内検討会における各課からの意見を集約、調整を行い、文化庁の指導を受け加筆修正を行ったことにより、令和4年度前期に文化庁認定を受ける流れが確実となった。 (2) 大江氏マップの作成配布や大江公物語のリライトを実施し、ホームページに掲載PRしたことにより、市民はもとより全国的な反応があり、寒河江が大江氏ゆかりの地であることを広く啓発することができた。

6. 今後の対応等

方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 見直し <input type="checkbox"/> 休廃止
今後の対応	(1) 「文化財保存活用地域計画」については、本年度前期の文化庁認定を目指し、作業や手続きを進め、印刷製本を行い市報やホームページにおける広報を行う。 (2) 大江公シンポジウムや大江広元役の俳優栗原英雄氏イベント出演業務、NHK相互協力冊子の制作、ゆかりの地映像制作等の事業を通じて、大河ドラマ「鎌倉殿の13人」を契機として、本市の歴史とともに市内外に情報発信していく。 (令和4年度予算 11,750千円)

事務事業点検・評価調書

1. 事業名等

事業名	埋蔵文化財調査事業	所管課・係	生涯学習課 歴史文化係
施策体系	【基本方針4】 ふるさとに誇りを持ち、郷土の歴史と文化を大切にすることを養う 2 郷土の歴史と文化を大切にすることを推進 ふるさとの歴史の啓発・普及と文化財の保護 史跡「慈恩寺旧境内」の保存と活用	予算科目	10 教育費 4 社会教育費 9 歴史文化費
教育振興計画			

2. 事業の概要

事業目的	埋蔵文化財の調査・保存を図るとともに、歴史と文化を尊び文化財に対する市民の意識高揚を図る。
事業内容	(1) 史跡の追加指定に関する遺跡の調査を行う。 (2) 文化財保護法に基づき市内遺跡の調査を行い、報告書を作成するとともに埋蔵文化財の記録保存を行う。

3. 予算額・決算額

(単位:千円 千円未満切上げ)

R2	当初予算額	4,954	補正額等	0	合計	4,954	決算額	4,474
R3	当初予算額	8,309	補正額等	0	合計	8,309	決算額	4,538

4. 事業の実施状況

(1) 発掘調査 ① 国史跡「慈恩寺旧境内」への追加指定に向けて、上の寺遺跡関連地の発掘調査を行った。 ② 工事実施に関する調査として、「慈恩寺旧境内」内容確認調査、並びに丸内2丁目地内の試掘・発掘調査、丸内3丁目地内の試掘調査を行った。 (2) 慈恩寺上の寺遺跡総合報告書の発刊 国史跡の追加指定にむけて総括報告書を印刷し発刊した。 (3) 慈恩寺調査検討委員会 委員会を2回開催し、国史跡の追加指定に向けた上の寺遺跡の調査状況の報告、慈恩寺上の寺遺跡総合報告書の作成について協議した。 (4) 埋蔵文化財フェア 「結髪土偶、里帰り展」 開催期間:9月22日～10月4日 内容:パネル並びに遺物の会場:寒河江市市美術館 来場者数:670名

5. 事業の効果及び評価

(1) 国や県の指導を受けながら慈恩寺調査検討委員会で協議、慈恩寺上の寺遺跡総合報告書を作成し、上の寺遺跡等の国史跡追加指定具申のための資料を整備することができた。 (2) 埋蔵文化財フェアでは、上の寺遺跡発掘調査出土資料など約260点を展示し670名の来場者が有り、結髪土偶や本市の縄文文化について、多くの市民に知ってもらったという当初の目的が果たせた。

6. 今後の対応等

方向性	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 見直し <input type="checkbox"/> 休廃止
今後の対応	(1) 国史跡追加指定に向け地権者説明会を開催し、関係図面や地籍図等を調整し地権者同意書添付のうえ文化庁への具申を行う。 (2) 市内遺跡に関する工事や開発事業の情報収集に努め、原因者への指導や試掘・発掘調査等について随時対応する。 (3) 埋蔵文化財の調査や「埋蔵文化財フェア」を開催して、遺跡の価値等について市民に周知していく。

事務事業点検・評価調書

1. 事業名等

事業名	郷土館保存事業	所管課・係	生涯学習課 歴史文化係
施策体系	【基本方針4】 ふるさとに誇りを持ち、郷土の歴史と文化を大切にすることを養う 2 郷土の歴史と文化を大切に活動の推進 ふるさとの歴史の啓発・普及と文化財の保護	予算科目	10 教育費 4 社会教育費 9 歴史文化費

2. 事業の概要

事業目的	(1) 県指定文化財である旧西村山郡役所、旧西村山郡会議事堂の保存を図る。 (2) 郷土の歴史資料展示施設として、市民の郷土学習活用を図り、歴史と文化を後世に伝える。
事業内容	(1) 郷土館の保存・維持管理 (2) 郡制時代をテーマとした資料館としての一般開放 (3) 郷土館特別展の開催

3. 予算額・決算額

(単位:千円 千円未満切上げ)

R2	当初予算額	4,071	補正額等	△ 84	合計	3,987	決算額	3,516
R3	当初予算額	2,396	補正額等	0	合計	2,396	決算額	1,864

4. 事業の実施状況

<p>(1) 業務委託による管理運営並びに維持管理等の実施 … 主な委託業務:管理業務、機械警備、清掃業務等 (2) 郷土館一般公開 … コロナ禍により、一時閉館し、また利用者の制限や感染対策の徹底を行いながら開館した。 期間: 5月1日～11月14日の土・日・祝日 入館者数: 536名(参考/令和2年度: 597名) 郷土学習対応/6月18日 柴橋小、9月7日 陵東中、10月7日 西根小、10月26日 醍醐小、11月8日 寒河江中部小、11月10日 南部小 計 6回 (4) 郷土館特別展「～地域のたから再発見～ 訪ねてみよう 寒河江市の石造文化財」の開催 開催期間: 9月17日～10月10日 入館者: 182名(参考/令和2年度: 300名) (5) 郷土館運営協議会の開催 … 期日: 3月18日 内容: 令和3年度事業報告、令和4年度事業計画、協議等</p>
--

5. 事業の効果及び評価

<p>(1) 管理運営並びに維持管理等業務の委託により、きめ細やかな管理を行うことができた。 (2) 郷土館特別展では、石造文化財のパネルと解説を展示し、地域の石造文化について関心を高めることができた。 (3) 市内の小・中学校の郷土学習に対応し、郷土館のPRや収集・保管資料の活用ができた。</p>
--

6. 今後の対応等

方向性	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 見直し <input type="checkbox"/> 休廃止
今後の対応	(1) 県指定有形文化財である建物を後世に残すため、適正に保存していく。 (2) 特別展等の開催や展示替えを行い、郷土を学ぶ環境づくりに努める。

事務事業点検・評価調書

1. 事業名等

事業名	学校職員衛生管理事業	所管課・係	学校教育課 教育総務係
施策体系	【基本方針5】 教育を取り巻く環境や社会の変化に応じた取組を推進する	予算科目	10 教育費 1 教育総務費 2 事務局費
教育振興計画	4 開かれた教育行政の推進 信頼に応える教育行政の推進 教育情報の公開と共有化の推進		

2. 事業の概要

事業目的	学校職員の安全の確保及び健康の保全を図る。
事業内容	(1) 衛生委員会の設置 (2) 学校職員の健康診断等の実施 (3) 長時間労働等に係るメンタルヘルス面接指導

3. 予算額・決算額

(単位:千円 千円未満切上げ)

R2	当初予算額	-	補正額等	-	合計	-	決算額	-
R3	当初予算額	4,117	補正額等	0	合計	4,117	決算額	3,608

4. 事業の実施状況

<p>(1) 学校職員の健康維持を図るため、衛生委員会を設置。</p> <p>(2) 学校職員を対象にした健康診断、胃がん、大腸がん検診を実施。</p> <p>(3) 学校職員を対象にしたストレスチェックを実施。受診率 小学校 h31 83.2%、R2 83.9%、R3 94.4% 中学校 h31 59.3%、R2 67.0%、R3 71.1%</p> <p>(4) 所定の時間を超える時間外勤務を行った学校職員に対し、産業医等による面接指導を実施(R3 面接者 40名)</p>

5. 事業の効果及び評価

<p>この事業は、これまで学校保健事業として行ってきた教職員の健康診断及びストレスチェック業務を、学校職員の衛生委員会の立ち上げに合わせ、新たな事業としたもので、加えて長時間勤務者のメンタルヘルス面接指導業務を行うもの。 学校職員のストレスチェック受診率は、これまでの働きかけ等により増加傾向にある。</p>
--

6. 今後の対応等

方向性	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 見直し <input type="checkbox"/> 休廃止
今後の対応	<p>学校職員衛生委員会を中心に、学校職員の健康維持に努める。特に、メンタル面での健康維持について、不調者の早期発見及び産業医等への面接へつないでいく。</p>

事務事業点検・評価調書

1. 事業名等

事業名	教育振興事業	所管課・係	学校教育課 学事係
施策体系 (教育振興計画)	【基本方針5】 教育を取り巻く環境や社会の変化に応じた取組みを推進する 1 信頼される教育の推進 信頼される教育環境づくり	予算科目	10: 教育費 2,3: 小学校費、中学校費 3: 教育振興費

2. 事業の概要

事業目的	学習教材等の計画的な整備を進め、教育環境の充実を図る。
事業内容	学習活動に必要な教材教具、理科備品、図書の整備を行い、児童の適切な学習環境の整備を図る。

3. 予算額・決算額

(小学校費)

(単位:千円 千円未満切上げ)

R2	当初予算額	32,978	補正額等	0	合計	32,978	決算額	31,725
R3	当初予算額	16,891	補正額等	0	合計	16,891	決算額	16,853

(中学校費)

R2	当初予算額	11,021	補正額等	△ 46	合計	10,975	決算額	9,400
R3	当初予算額	21,193	補正額等	0	合計	21,193	決算額	19,720

4. 事業の実施状況

学習指導要領等に基づき、教材教具、理科備品、図書等の整備を行い、学習環境の整備充実に努めた。

(小学校)

① 教材教具、図書等一般事業	15,161 千円	(R2 31,638千円)
② 理科教育振興設備整備事業	1,730 千円	(R2 1,340千円)

(中学校)

① 教材教具、図書等一般事業	20,023 千円	(R2 10,436千円)
② 理科教育振興設備整備事業	1,170 千円	(R2 585千円)

教科書改訂年度に教員用指導書等を購入するため、年度間の予算に開きがある

5. 事業の効果及び評価

(1) 理科備品については、国庫補助金を活用し、各学校からの要望を踏まえながら、教材の整備を進めることができた。

(2) 児童生徒1人1台タブレットPCの使用開始にあわせ、デジタル教科書を導入。(小学校:各学年1教科、中学校:各学年2教科←各学校で購入教科を選択)また、デジタル教科書の使用により、英語発音、社会理科の動画視聴、さらに、支援を必要とする児童生徒には読み上げ、ルビ、文字拡大等学びやすい学習環境が提供できている。

6. 今後の対応等

方向性	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 見直し <input type="checkbox"/> 休廃止
今後の対応	・教材教具整備については、可能な限り学校からの要望に沿った整備を進め、継続して学習環境の充実を図っていく。 ・1人1台タブレットPCと併用し、デジタル教科書の使用を継続、拡大していく。

事務事業点検・評価調査

1. 事業名等

事業名	就学援助事業	所管課・係	学校教育課 学事係
施策体系 (教育振興計 画)	【基本方針5】 教育を取り巻く環境や社会の変化に応じた取組みを推進する 1 信頼される教育の推進 信頼される教育環境づくり	予 算 科 目	10 教育費
		項 目	2,3 小学校費、中学校費
		目 目	3 教育振興費

2. 事業の概要

事業目的	要保護・準要保護児童生徒及び特別支援学級児童生徒の保護者に対し、就学に要する費用の援助を行い、当該児童生徒の就学機会の確保を図る。
事業内容	学用品費、通学用品費、修学旅行費、校外活動費、給食費、医療費を支給し、就学を援助する。

3. 予算額・決算額

(小学校費)

(単位:千円 千円未満切上げ)

R2	当初予算額	12,723	補正額等		合 計	12,723	決算額	9,258
R3	当初予算額	11,432	補正額等		合 計	11,432	決算額	6,091

(中学校費)

R2	当初予算額	17,456	補正額等		合 計	17,456	決算額	8,088
R3	当初予算額	13,515	補正額等		合 計	13,515	決算額	8,797

4. 事業の実施状況

(1) 要保護・準要保護 就学援助費の支給		小学生:157名	金額	5,165,100円	(R2:155名	金額	8,498,334円)
		中学生:104名	金額	8,259,654円	(R2:105名	金額	7,415,910円)
(2) 特別支援教育就学奨励費の支給		小学生:40名	金額	925,122円	(R2:34名	金額	758,698円)
		中学生:15名	金額	536,756円	(R2:23名	金額	671,213円)

支給項目	援助内容	支給対象	年間支給額		
			小学校	中学校	
学校給食費	保護者が学校給食費として納入する額	全学年	準要保護 実費 (限度53,000円)	実費 (限度62,000円)	
修学旅行費	修学旅行に参加するために必要な交通費、宿泊等	参加者	要保護 準用保護 実費(対象経費) (限度22,690円)	実費(対象経費) (限度60,910円)	
校外活動費 (宿泊を伴わないもの)	学校行事として行われる校外活動の参加費用	参加者	準要保護 実費(対象経費) (限度1,600円)	実費(対象経費) (限度2,310円)	
校外活動費 (宿泊を伴うもの)	学校行事として行われる校外活動の参加費用	参加者	準要保護 実費(対象経費) (限度3,690円)	実費(対象経費) (限度6,210円)	
学用品費	通常必要とする学用品購入費	全学年	準要保護 11,630円	22,730円	
新入学 学用品費 等	入学後支給	新入学児童・生徒が通常必要とする学用品費等	第1学年	準要保護 51,060円	60,000円
	入学前支給(入学準備金)	次年度に小学校又は中学校に就学を予定している者が、通常必要とする学用品費等	就学予定者	準要保護 51,060円	60,000円
通学用品費	通常必要とする通学用品購入費	第2~6学年	準要保護 2,270円	2,270円	
クラブ活動費	中学生の部活動の実施に必要な用具等の購入費	全学年	準要保護 -	実費(対象経費) (限度30,150円)	
医療費	結膜炎、慢性副鼻腔炎、中耳炎、う歯等の治療費	該当者	要保護 準用保護	自己負担分の全額	
オンライン学習通信費	通常必要とするオンライン学習通信費	全学年	準要保護 12,000円	12,000円	

5. 事業の効果及び評価

令和3年度より、GIGAスクールタブレットを家庭でも活用するため、オンライン学習通信費を追加し制度の充実を図った。

6. 今後の対応等

方 向 性	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 見直し <input type="checkbox"/> 休廃止
今後の対応	コロナ禍による、学校行事等の変更や制限に伴って支給額も減少傾向にある。今後、感染症の鎮静化に伴って支給額の増加が見込まれる。さらに制度の周知を図っていく。

事務事業点検・評価調書

1. 事業名等

事業名	学校管理事業(小中学校)	所管課・係	学校教育課 教育総務係
施策体系	【基本方針5】 教育を取り巻く環境や社会の変化に応じた取組みを推進する	予算科目	10 教育費 2.3 小学校費、中学校費 1 学校管理費
教育振興計画	2 安全安心で充実した教育環境の整備 安全管理の徹底		

2. 事業の概要

事業目的	教育環境の充実と安全安心な学校づくり及び、施設設備の維持管理
事業内容	小中学校施設・設備の整備、営繕及び維持管理、備品消耗品の購入

3. 予算額・決算額

(小学校費)

(単位:千円 千円未満切上げ)

R2	当初予算額	220,014	補正額等	166,779	合計	386,793	決算額	169,481(繰越161,006)
R3	当初予算額	179,305	補正額等	0	合計	179,305	決算額	176,354

(中学校費)

R2	当初予算額	192,867	補正額等	52,052	合計	244,919	決算額	174,778(繰越50,151)
R3	当初予算額	89,249	補正額等	0	合計	89,249	決算額	82,709

4. 事業の実施状況

(1) 保守点検、施設管理業務委託等
① 警備保障業務、消防用設備保守点検業務、ボイラー清掃管理業務、貯水槽清掃点検業務、樹木選定業務
② 印刷機賃貸借 外
(2) 修繕
給排水管修理、消防設備修理、プールろ過機等修理他
(3) 施設整備工事
水飲み場自動水栓化工事、トイレ暖房機設置工事、地下油タンク廃止撤去工事、小学校特別教室空調設備工事
寒中部小特別教室間仕切り設置工事 他
(4) 備品整備
児童用椅子、学納金システムソフト 外

5. 事業の効果及び評価

(1) 普通教室、特別教室等へのエアコン設置が完了した中学校では、エアコンによる冷暖房を開始。ボイラーの維持管理業務や灯油購入が不要となった。
(2) 新型コロナ対策として、小中学校全ての水飲み場等の自動水栓化を行った。衛生面での向上が図られるとともに、水道使用量が大きく削減された。
水道使用量 R2 67千t→ R3 55千t(約20%減)
水道料金 R2 1560万円→ R3 1350万円(約200万円減)

6. 今後の対応等

方向性	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 見直し <input type="checkbox"/> 休廃止
今後の対応	「学校施設整備計画」において、新たな中学校の設置や小学校の統合が行われる計画が示されている。今後学校により施設設備の不良箇所改修は、大規模な工事等によらず機能維持のための修繕とするなどの選別が必要となる。

事務事業点検・評価調査

1. 事業名等

事業名	公民館活動事業	所管課・係	生涯学習課 中央公民館
施策体系	【基本方針5】 教育を取り巻く環境や社会の変化に応じた取組みを推進する	予算科目	10 教育費 4 社会教育費 4 公民館費
教育振興計画	3 地域の教育力の向上と地域コミュニティの活性化 地域の特色を生かした公民館活動の推進		

2. 事業の概要

事業目的	生涯学習の拠点として、市民の学習ニーズに即した講座や文化、レクリエーション等の各種事業を実施し、生涯学習活動と公民館活動を推進する。
事業内容	(1)各地区公民館と分館、地域団体が連携しながら、自主的な学習活動や研修会等の地域づくり活動を支援していく。 (2)中央公民館では、歌を通して豊かな心を育む寒河江市少年少女合唱団の育成を図る。

3. 予算額・決算額

(単位:千円 千円未満切上げ)

R2	当初予算額	4,421	補正額等	0	合計	4,421	決算額	3,302
R3	当初予算額	4,312	補正額等	0	合計	4,312	決算額	3,236

4. 事業の実施状況

<p>生涯学習活動や地域活動の拠点として、豊かな人づくりのほか、地域に親しまれる公民館を目指し各種事業が計画されたが、新型コロナウイルスの感染拡大が収まらない状況の中で、令和元年度・2年度に続き、令和3年度も多くが中止や縮小開催を余儀なくされた。</p> <p>① 分館活動／市内61分館の分館長や分館主事を中心に、各地域で特色ある分館活動が計画されていたが、新型コロナウイルス感染防止のため、中止や規模縮小となる事業が多かった。</p> <p>② 生涯学習活動推進員／16名の推進員から、三つの自主事業の運営に協力いただいた。</p> <p>③ 学びのふるさと推進事業</p> <p>(ア) 地域塾事業(分館と地区公民館が連携し実施する複数回の学習会)／元町分館で実施予定だったが、新型コロナウイルス感染防止のため中止となった。</p> <p>(イ) 分館連携事業(分館と地区公民館が連携し地域力向上等を図る事業)／中郷分館(美原町分館、日和田分館、宮内分館は中止) ※美原町分館と宮内分館については、地域祭りの交流イベントを、公連協からの支援となる「ふれあい交流事業」として実施した。</p> <p>(ウ) 慈恩寺絵画コンクール／応募数:221点 [参考:令和2年度応募数:51点]</p> <p>(エ) 市公民館大会／新型コロナウイルス感染防止のため大会自体は中止したが、研修資料をまとめ分館関係者へ郵送配布した。</p> <p>④ 市少年少女合唱団の育成／小学生から高校生までの団員24名で構成。定期演奏会は三年連続中止となったが、夏の合宿の代わりに「お楽しみ会」や、クリスマスコンサートを実施した。 [参考:令和2年度団員:21名]</p> <p>⑤ 運営審議会・運営会議 公民館における事業内容や事業計画について意見を聞き、事業の企画実施に取り組んだ。</p> <p>(ア) 中央公民館運営審議会 / 7名・年1回 [参考:令和2年度8名・年1回]</p> <p>(イ) 東部地区公民館運営会議 / 15名・年1回 [参考:令和2年度16名・年1回]</p> <p>(ウ) 南部地区公民館運営会議 / 9名・年1回 [参考:令和2年度 9名・年1回]</p> <p>(エ) 柴橋地区公民館運営会議 / 13名・年1回 [参考:令和2年度14名・年1回]</p> <p>(オ) 西部地区公民館運営会議 / 15名・年1回 [参考:令和2年度17名・年1回]</p>

5. 事業の効果及び評価

<p>(1)コロナ禍のため、各地区の文化祭や各分館の子ども会事業は、大半が中止された。ただ一部地域においては、文化祭等が開催された。</p> <p>(2)市少年少女合唱団のクリスマスコンサートでは、訪問先の老人ホーム施設「長生園」において大変喜ばれ、テレビ局からも取材・放送され、内外に活動をアピールすることができた。また、演奏を収めたビデオをその他の高齢者施設にも贈呈し好評であった。</p> <p>(3)生涯学習活動推進員についても、しばらくぶりの活動となったが、感染予防対策も含めて適切に協力いただき大きな力となった。</p> <p>(4)慈恩寺絵画コンクールにおいても、「慈恩寺テラス」がオープンした影響もあり、これまでにない応募点数の増加となった。</p>

6. 今後の対応等

方向性	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 見直し <input type="checkbox"/> 休廃止
今後の対応	<p>(1) コロナ禍で地域の事業・活動が中止や縮小を余儀なくされたことにより、地域のつながりを繕うところからのスタートとなるが、まずは各地区公民館の広報活動による情報の提供等、出来るところからの地域づくりの復活に向けた取り組みを支援していく。</p> <p>(2) 中央公民館においても、コロナ禍の収束状況にらみながら、市少年少女合唱団の事業運営及び新規団員募集を復活し、また、市公民館連絡協議会や市子ども会育成連合会等、全市民的団体の活動再開を支援していく。</p> <p>(3) 柴橋地区公民館については引き続き、コミュニティセンター事業(レクリエーション大会、文化祭等)と地区公民館事業(分館、子育て関係事業等)の整理を図るとともに、コミュニティセンター事業の自主的な運営を支援していく。</p> <p>(4) 各種事業を再開する中で、改めて感染防止対策の徹底や事業内容・募集人数等を検討し、安心して参加できる体制を整える。</p>

事務事業点検・評価調書

1. 事業名等

事業名	公民館整備事業	所管課・係	生涯学習課 生涯学習係
施策体系 教育振興計 画	【基本方針5】 教育を取り巻く環境や社会の変化に応じた取組みを推進する 3 地域の教育力の向上と地域コミュニティの活性化 地域の特色を生かした公民館活動の推進	予算科目	10 教育費 4 社会教育費 1 社会教育総務費

2. 事業の概要

事業目的	地域のコミュニティの核である地区公民館分館の整備を支援し、機能充実を図ることで更なる地域力の向上を目指す。
事業内容	(1) 分館の新築・増改築、駐車場舗装及び耐震改修等の整備事業に対し、予算の範囲内で事業費の一部を補助する。 (2) バリアフリーのための備品購入として、令和2年度から和室用の座椅子、3年度からそれに対応した座卓を補助の対象としている。

3. 予算額・決算額

(単位:千円 千円未満切上げ)

R2	当初予算額	27,517	補正額等	2,016	合計	29,533	決算額	27,866
R3	当初予算額	9,191	補正額等	0	合計	9,191	決算額	8,578

4. 事業の実施状況

<p>公民館整備事業補助金</p> <ul style="list-style-type: none"> 楯分館駐車場舗装工事 事業費 1,650,000円 完成年月日 令和3年6月22日 補助金額 1,320,000円 谷沢分館外壁塗替え工事 (外壁塗装、クラック補修等) 事業費 2,570,700円 完成年月日 令和3年6月30日 補助金額 856,000円 <p>他、全20分館 事業件数 21件 補助総額 8,578,000円</p> <p>○ 事業内訳 (延べ件数)</p> <ul style="list-style-type: none"> エアコン設置工事 12件 屋根等塗装工事 4件 照明LED化工事 2件 駐車場舗装、トイレ改修工事、畳替え工事、備品購入 各 1件 <p>(令和2年度整備件数 分館(17件) 事業費 27,866千円)</p>
--

5. 事業の効果及び評価

20分館において整備が図られ、地域活動の活性化に繋がった。

6. 今後の対応等

方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 見直し <input type="checkbox"/> 休廃止
今後の対応	(1) 各分館に対して、分館の整備に係る意向調査を行い、事業を進めていく。 (2) 100戸以上の分館への補助率を1/3から1/2へと拡充した。 (R4予算 9,000千円)

事務事業点検・評価調書

1. 事業名等

事業名	放課後子ども教室推進事業	所管課・係	生涯学習課 生涯学習係
施策体系 教育振興計画	【基本方針5】 教育を取り巻く環境や社会の変化に応じた取組みを推進する 3 地域の教育力の向上と地域コミュニティの活性化 地域の特色を生かした公民館活動の推進 生涯学習活動を通じた地域コミュニティの活性化	予算科目	10 教育費 4 社会教育費 10 生涯学習推進費

2. 事業の概要

事業目的	放課後や週末及び小学校の長期休業中の子どもたちの安全で健やかな居場所づくりを推進し、集団遊びや地域の人々との触れ合いを通して子どもの社会性を養い、さらに、地域の教育力の向上を図る。
事業内容	寒河江市放課後子どもプランの事業として、放課後や週末等に市内の小学校児童を対象に教室を開催。

3. 予算額・決算額

(単位:千円 千円未満切上げ)

R2	当初予算額	1,438	補正額等	0	合計	1,438	決算額	354
R3	当初予算額	1,438	補正額等	0	合計	1,438	決算額	919

4. 事業の実施状況

<p>コロナ禍により、規模を縮小したり、一部事業を中止したりしながらも、全小学校を対象として5教室を開催した。</p> <p>【内容】ニュースポーツ体験、図画工作活動や施設見学などを実施。</p> <p>【参加人数等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コーディネーター 5名(前年度比2名増) 協働活動支援員・サポーター 31名(前年度比 12名増) ・参加者総数 179名(前年度比 133名増) (参加者内訳) 寒河江小・西根小・三泉小:63名(前年度実施なし) 寒河江中部小:69名(前年度実施なし) 南部小:15名(前年度比 9名減)、柴橋小:20名(前年度比 9名増)、高松小・醍醐小・白岩小・幸生小 12名(前年度比 1名増)

5. 事業の効果及び評価

<p>(1)コロナ禍により人数を制限したり回数を減らしたりしながらも、工夫を凝らし各公民館において事業を実施することができた。</p> <p>(2)集団内の異年齢交流や、地域の方々との交流が図られ、充実した教室を展開することができた。</p> <p>(3)活動を通し、参加した児童の社会性が培われた。</p>
--

6. 今後の対応等

方向性	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 見直し <input type="checkbox"/> 休廃止
今後の対応	<p>(1) 子ども達の社会性を高めるため、地域の大人との触れ合いや自然体験の機会を盛り込み、放課後児童クラブとも連携しながら事業を行っていく。</p> <p>(2) 指導員の後継者の確保に努め、教室の運営体制の充実を図っていく。</p> <p>(3) 本事業を通して、子ども達の地域活動への参加が促進される流れを作っていく。</p>

事務事業点検・評価調書

1. 事業名等

事業名	教育委員会事務局管理事業	所管課・係	学校教育課 教育総務係
施策体系	【基本方針5】 教育を取り巻く環境や社会の変化に応じた取組を推進する	予算科目	10 教育費 1 教育総務費 2 事務局費
教育振興計画	4 開かれた教育行政の推進 信頼に応える教育行政の推進 教育情報の公開と共有化の推進		

2. 事業の概要

事業目的	教育委員会事務局(学校教育課)の総務一般に関する事務を処理する。
事業内容	(1) 教育委員会規則等の制定及び改廃に関する事務 (2) 教育功労、叙勲等に関する事務 (3) 教育委員会の事務事業の点検・評価に関する事務 (4) 学校基本調査等各種調査に関する事務 (5) その他学校教育課内の庶務に関する事務

3. 予算額・決算額

(単位:千円 千円未満切上げ)

R2	当初予算額	6,061	補正額等	4,020	合計	10,081	決算額	9,417
R3	当初予算額	3,581	補正額等	0	合計	3,581	決算額	3,129

4. 事業の実施状況

<p>(1) 「寒河江市立学校のあり方検討委員会」の事務局として、第7回～第10回の検討委員会を実施し、令和3年12月に答申を受けた。 (2) 教育功労、叙位叙勲に関する処理実績 ・高齢者叙勲 1件(R2 2件) ・死亡叙位叙勲 3件(R2 3件) (3) 教育委員会が執行した事務事業(令和2年度分)の点検・評価を実施し、その結果に関する報告書を市議会に提出するとともに、市ホームページ等において公表。 (4) 学校基本調査、地方教育費調査、学校施設台帳作成等各種調査事務を執行。 (5) 寒河江市総合教育会議の開催 2回 (6) 教育委員に関する事務(毎月の定例委員会、全小中学校を対象にした学校訪問等)※視察研修は中止 (7) 学校施設整備時のアドバイザーとして、建築士に指導助言等の業務を委託 176万円 (8) 公用車等の借上げ料 26万円</p>
--

5. 事業の効果及び評価

<p>(1) 「第2次市教育振興計画」(改定版)を4月から施行した。児童生徒1人1台配備されたタブレットPCは、県内で最も早く自宅への持ち帰りを実施し、オンラインでの授業参加などに積極的に取り組むなど、新たな主要施策とした掲げた「これからの時代を見据えた教育の情報化の推進」を実践した。 (2) 令和元年7月から「学校のあり方検討委員会」により継続的に協議が行われた内容について、答申書の提出を受け「学校施設整備計画」を策定した。</p>
--

6. 今後の対応等

方向性	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 見直し <input type="checkbox"/> 休廃止
今後の対応	「部活動の地域移行」について、検討委員会を組織し、協議検討を進めていく。